

2015年度('14/11~'15/10)EPEクラブ活動報告

2015/10/E現在 板谷

連番	592	例会No.	OP206	内容	鳥取・若桜鬼ヶ城と氷ノ山 歴史探訪シリーズNo. 27	実施年月日	2014/11/2~3	担当者	小椋(勝)、西村(晶) 紀伊榎本(節)	参加者数	20
参加者	小椋勝久、紀伊榎本節雄、西村晶、青木義雄、樺田克彦、和田良次、村木正人、小杉美代子、片山純江、紀伊榎本博美、池田える子、三原博子、和田敬子、村木とも子、寄川都美子、和田都子、實操綾子、戸田晴子、喜多田恵美子、藤田喜久江										
担当者コメント	<p>11月2日 三連休の中日、前日の天気予報では寒冷前線の通過と言う予報、雨の心配をしながら中国道を西へと向かう。中国道から鳥取道に入り西粟倉で一般道へ 紅葉の林道を30分程走ると若杉天然林(日本の森林浴100選)に着く、下車後挨拶を済ませ雨上がりに映える鮮やかなモミジの紅葉を見ながら若杉峠へ向かう。美作の国と因幡の国を結ぶ旧街道は標高が上がるにつれ紅葉も終わり、山も冬の準備に入ろうとしていた。霧で幻想的なブナ林の中、行く秋を惜しむかのように所々に残る赤、黄色の紅葉。40分~50分ほど歩くと天然林を抜け若杉峠に着く、霧で何も見えない峠の東屋で少し休憩を取り足早に下山する。下山後バスに乗り若桜町に向かう頃には晴れ間ものぞき快適なハイキング日和、車窓から晩秋の山々を見ながら、明日は良い天気かなと思えば若桜鬼ヶ城に向かう。中学校跡地横に登山口があり急な登山道を北に延びる尾根道へと向かう地元の人は『城山には登りませんから』と言う登山道は所々荒れ果てていました。尾根より三の丸跡を通り二の丸跡に着く、ここで私のお城の説明を聞いてもらったあと各自城跡を散策し、戦国武将やお姫様は大変だった等の賑やかな話し声、かつての活気を取り戻すかのように、静かな城跡に話し声がこだましていました。</p> <p>11月3日 朝食は雨煙漂う紅葉の山を見ながらの朝食、せつかくの良い景色が雨のことを思うと台無しに、日頃、晴れ男だと自画自賛していたのだがさすがに残念、食事が終わり雨は上がるとの天気予報なので、氷ノ山に登る事を皆に説明する。バスで移動し登山口に着くが雨は上がり雨具を付けての出発、1時間ほどで氷ノ山越に着く、運よく避難小屋は誰もいなかったので小屋で休憩をとる。霧で景色も見えない登山道を足元に注意しながら登っていく、途中から雨があられになり標高1400mあたりから雪へと変わり、頂上は強い風が雪を叩きつけてくる。早々に避難小屋に入り一休み、ゆっくりできると思っていたが、次から次にと登山者が入ってくるため小屋の中は40人近い人、休憩もそこそこ小屋を出て下山をするが下山途中も多くの登山者が登ってくる。北海道トムラウシのことを思い出し他人事ながら心配する。雨の中ぬかるんだ登山道を慎重に歩き下山、登山口に着く頃には雨は上がり始めていた。登山靴の泥を落とし雨具を脱いでバスに乗るとコーヒーのいい香り、運転手さんがコーヒーと昆布茶のサービスしてくれ、一息つき帰路に着く。氷ノ山とは(高原リゾート氷太くんより)天照大神の一行が東征の際ふもと村で一夜を過ごされました。翌朝、天照大神は木々のこづえに朝日がそそぎ、まるで宝石のように輝く様子を見て思わず「日枝(ひえ)の山…」とつぶやかれたと言います。日枝の山はいつしか氷ノ山と呼ばれるようになりました。 記:小椋(勝)</p>										
連番	593	例会No.	一般377	内容	ベーシック登山No.27 北摂・青貝山~天台山	実施年月日	2014/11/9	担当者	秋田、小椋(勝)	参加者数	
参加者	雨天中止										
担当者コメント											
連番	594	例会No.	一般378	内容	台高・高見山	実施年月日	2014/11/16	担当者	大西(恒)、板谷	参加者数	9
参加者	大西恒雄、板谷佳史、保木道代、青木義雄、寄川都美子、杉本栄子、佐藤敏子、小川眞裕美、安岡和子										
担当者コメント	<p>樹氷の時期、増発のバス便が出るくらい人気のある高見山も、普段は定期的なバス便がない。高見山登山口の集落でタクシーを降る。道路から登山口の矢印に従い山裾に入り少し行くと、大きな木の下に祠が祀ってある。木の枝には山仕事の道具類(木で作った模型の斧・鉈・鎌・梯子・木登り用の足場、新しかった)がぶら下げてあった。きっと山仕事の無事を祈願するものであろう。道にはしっかりした石畳の部分がここに残っている。又、その昔伊勢南街道(紀州の殿様が参勤交代で通ったため紀州街道とも言われる)として人の往来が盛んであったことがうかがえる跡がある。大和・伊勢・紀州の人々が米や塩、魚などの市を立てたであろう古市跡、伊勢参りの人々が休憩の合間に虱をとったという「虱とり」というところなど、決して楽な道ではないが主要な街道であったのであろうことがわかる名称が残っている。山道は幾重にも曲がりながら高度を上げてやがて小峠に至る。「小峠」から車の通れる広い道が山腹を巡って「大峠」に続いているが、高見へはここから急な尾根道を辿る。鳥居を潜り石の階段に続く山道を登る(頂上の社への参詣道)。小半時も急坂を登り、更にもう一度急坂を登ると傾斜も落ち「国見岩」「揺るぎ岩」「笛吹き岩」などのいわれのある(?)ところを過ぎる。開けた尾根道を進むと、非難小屋の後ろに石垣で囲まれた頂上の社(東征の案内をしたヤタガラスを祀る。立派)がある。二等三角点の標石は石垣の裏にあった(見落とされるほどひっそりと在る)。下山は往路を戻る(大峠への道が崩れ、通行止め)。道標は要所にあり迷うこともないが、決して楽な山ではない。紅葉は終わっていた。 記:大西(恒)</p>										
連番	595	例会No.	一般379	内容	六甲・蓬莱峡・座頭谷~行者山	実施年月日	2014/11/23	担当者	紀伊榎本(節)、 小椋(勝)	参加者数	24
参加者	紀伊榎本節雄、小椋勝久、青木義雄、和田良次、神阪洋子、村木正人、小杉美代子、片山純江、紀伊榎本博美、三原博子、村木とも子、寄川都美子、小椋美佐、和田都子、藤田喜久江、横山寿夫、近藤さとみ、黒澤百合子、寺島直子、安本昭久、安本嘉代、杉本栄子、佐藤敏子、小川眞裕美										
担当者コメント	<p>久しく訊ねなかった山に出会うと、古手は興奮しかつ感傷的になる。同じ場面でも新手は感動しかつ瑞々しい。これがEPEクラブの楽しくて面白いところでしょう。互いに足らぬところは補って満るところは分かち合う、この気持ちがこのクラブを支えています。今夏は雨天中止の例会が続き、秋を迎えてようやく晴天に恵まれてきました。本日もまれにみる快晴です。多くの仲間たちとこれからも益々、E(楽しく)P(力強く)E(優雅に)な活動を続けましょう。 記:紀伊榎本(節)</p>										
連番	596	例会No.	一般380	内容	ベーシック登山No.28 北摂・ボンボン山 テーマ:装備についての基本	実施年月日	2014/12/14	担当者	野原、板谷、秋田	参加者数	

2015年度('14/11~'15/10)EPEクラブ活動報告

2015/10/E現在 板谷

参加者	野原勇、板谷佳史、秋田文雄、翁長和幸、紀伊塾本博美、寺島直子、横山寿夫、近藤さとみ、小川眞裕美、戸田晴子、實操綾子、松本明恵、杉本栄子、片山純江、和田都子、村木とも子、牛山友幸、牛山恵美子、磯辺秀雄、岩本和行、寄川都美子、和田敬子、青木義雄、小杉美代子、高木恵美子、辻角ますみ、江本恭子、安本昭久、安本嘉代、谷村洋子			参加者数	30				
担当者コメント	<p>天気図を見ると西高東低の冬型、天気予報も大阪は曇り一時晴、日本海側は大雪の予報が出ており、最高気温も8℃と低い。今日の参加者は10名程度かなと想像していたが、何と30名もの参加者。大阪駅で多数の参加者を見たとき「えっ」と声が出そうになった。今年度から、ベーシック登山は実施方法が一部変更されました。昨年度までは秋田さんが毎回担当リーダーとなり、山歩きに慣れることを中心にしたものでした。しかし、今年度は秋田さんは顧問として参加、固定リーダーは板谷さん、担当リーダーはその都度変更。また新会員の公募も始まることもあり、歩くだけでなく山登りに役立つ何かを持って帰ってもらえるようにテーマを設定すること。今回がその初回ということで「装備」について基本講習を兼ねて登ることになりました。今回のコースは、今年偶然に発見したもの。半年ほど前にボンボン山から下山途中で「通行禁止」の看板がかかっているコースがあり、この先はどうなっているのか確かめたくて進入。その後も通行禁止の看板や表示が次々に現れましたがすべて無視。危険な個所があれば、いつでも引き返すつもりでしたが結局何ら問題となる箇所もなく下山できました。そのコースを今回登ったわけですが、「通行禁止」の看板、表示が全てなくなっていました。以前下った時は登山道の整備中だったのかも？。一年中登山者の絶えることのないボンボン山にあって、現時点では殆ど他の登山者に会わない一番静かなコース。難点と言えば登山開始の急登(短いですが山に登りに慣れていない方、体力不足の方には辛いですね)、下りにとった場合は秋であれば多量の落ち葉、冬であれば雪による滑落の危険性が考えられることです。今回は「装備」について、休憩の都度話をさせていただきました。教科書的な話ではなく、数多く失敗してきた私の実体験から学んだ実践的な話、ちょっとした工夫・アイデアを中心にしました。また最後にシュリングを使ったハーネスの作り方や危険個所の通過方法、負傷者が発生際の搬送方法についても実演を交えて行いました。やや雑学的な話になった点もありましたが、参加された方々の頭の片隅にでも置いてもらって何かの際に参考していただければ幸いです。 記:野原</p>								
連番	597	例会No.	一般381	内容	比良・権現山～小女郎峠	実施年月日	2014/12/20	担当者	翁長
参加者	翁長和幸、保木道代			参加者数	2				
担当者コメント	<p>天気予報が雨の為か、集合場所に集まったのはリーダー2人のみ。7:45発に乗車予定なので4～5分前まで、ホームと集合場所それぞれ待機した。が誰も来なかった。サブリーダーの西村さんに「本日は中止」と伝えて別れた。念の為、乗車予定の列車が出るまで、と思い再度ホームに上がってみる。列車が到着しドアが開きかけた時、保木さんが足早に現れた。ドアが閉まる直前に飛び乗り和邇駅へ。権現山登山口までタクシーで入る。少し手前から雪が見られた。コースの林道は10cm位の積雪でトレールはなかった。踏み跡のない新雪を歩くのは気分が良いものだ。林道はかなり奥まで続いており歩きやすい。ズボン(権現山・霊仙山のころ)は風が吹き抜け寒い。休憩もそこそこにして登りだす。いつの間にか、みぞれになり雨具上下に身をつつむ。積雪はスネからヒザぐらいに増えてきた。所どころ迷うが高いところを目指して、歩きやすいコースを選べば良い。ひととき急な雪面を登れば頂上であった。夏道は少しトラバースぎみに上がっているようだ。頂上は切り開きなので、風とみぞれでとても寒い。予定では小女郎池へ向かう事になっているが、悪天の為登ったコースを下山する事にした。高度が下がるにつれ雨は本降りになってきた。最寄りのバス停で時刻表を見たがバスはない。タクシーを呼び和邇駅へ。今回は誰にも会わない2人だけの例会となった。この例会予告を作ったのは真夏の8月です。多少の雪はあると思っていたのですが、今年の異常気象でこのような積雪になるとは、思いもよりませんでした。数か月先の山を想定して山へのお誘い文を作るのは難しいですね。 記:翁長</p>								
連番	598	例会No.	一般382	内容	鈴鹿・綿向山	実施年月日	2014/12/23	担当者	板谷、野原
参加者	板谷佳史、野原勇、神阪洋子、寺島直子、黒澤百合子、谷村洋子、小椋美佐、岩本和行、安本昭久、安本嘉代、笠松マサエ、杉本栄子、保木道代、小川眞裕美、小杉美代子、佐藤敏子、安部泰子			参加者数	17				
担当者コメント	<p>綿向山は滋賀県側から日帰りで気軽に登れる鈴鹿の山として、また冬の樹氷目当ての山として人気のようだ。EPEでも身近な金剛山や高見山等とは一味違った冬山入門の山として初級者でも参加して頂けると思い計画しました。12月に入って寒波が続いているが、今日は冬型の天気が緩みあまり寒くはない。登山口に着くとわずかだが積雪が見られるので、上はかなりの積雪だろう。すでにマイカーで来た登山者が大勢登っているようだ。出発時に少し時雨れたがすぐに止む、二合目あたりから踏み固められた雪が凍っている箇所もありアイゼンを着けたが、手間取る人も居り、先日のベーシック登山での講習の続きのようになってしまった。七合目付近の行者堂前で昼食休憩としたが、寒いなかでもあり済ませたらすぐに出発。ここからは冬用ルートを探ると、樹氷となったブナ林の尾根の直登となり冬山気分が満喫できる。見失いようがない大きなケルンが建つ綿向山山頂は次々登って来る登山者で賑やか、厚い雲に閉ざされ展望はゼロだが、本年最後の例会山頂を楽しんだ。ここまでで時間を要してしまったので、竜王山への縦走は中止とし、往路を引き返すことに計画変更した。午後から気温が上がって、下部の樹氷や積雪は溶け始めてしまった。15時頃登山口に戻り、呼んでおいたタクシーにタイミング良く乗り込み近江八幡駅に戻った。 記:板谷</p>								
連番	599	例会No.	一般383	内容	黒梅谷道～金剛山	実施年月日	2015/1/3	担当者	西村(晶)
参加者	西村晶、小杉美代子、杉本栄子、安本昭久、安本嘉代、前田守、寄川都美子、寺島直子、保木道代、佐藤敏子、板谷佳史、紀伊塾本節雄			参加者数	12				
担当者コメント	<p>前日の降雪を期待しての入山です、登山口よりうっすらと雪が積もっており期待が持てそうです。セトより尾根道に出る辺りは一面の雪景色で気温も低いのか霧氷が白く輝いているのに感激する。アイゼンを付けて慎重に頂上を目指す。国見城跡の広場は登山者で溢れていました。転法輪寺に初詣、今年も安全登山を願う。 記:西村(晶)</p>								
連番	600	例会No.	一般384	内容	新年ハイキング・楨尾山	実施年月日	2015/1/11	担当者	野原、板谷

2015年度('14/11~'15/10)EPEクラブ活動報告

2015/10/E現在 板谷

参加者	野原勇、板谷佳史、秋田文雄、安部泰子、池田える子、磯辺秀雄、上原進一、牛山恵美子、牛山友幸、江本恭子、小川眞裕美、翁長和幸、片山純江、川崎喜美子、紀伊桒本節雄、紀伊桒本博美、喜多田恵美子、樺田克彦、黒澤百合子、小杉美代子、櫻井宏子、佐藤敏子、杉本栄子、杉本康夫、高木恵美子、辻角ますみ、戸田晴子、永島健一、藤田喜久江、保木道代、堀木宣夫、真下好雄、松田芳治、實操綾子、三原秀元、村木とも子、村木正人、安本昭久、安本嘉代、山倉康次、吉田伸實、寄川都美子、和田敬子、和田良次、和田都子			参加者数	45				
担当者コメント	例年のごとく、「いよやかの郷」のチャーターバス3台で登山口近くの駐車場まで送ってもらう。毎度のことながら登山口、下山口への送迎大変助かります。駐車場から登山道入り口までは短い距離ですが、住宅地を歩くため大声を出さない配慮が必要。本日の登山コースはダイヤモンドトレールのコースにもなっているため、道標は勿論のこと、登山道も整備されており歩きやすい。休憩ポイントは参加者多数のため限定される。最初はポテ峠、番屋峠そして施福寺本堂前を考えていたが、番屋峠は狭く参加メンバー全員が休めることは無理と判断し休憩ポイントを追分に変更。追分からは10分程度の歩きで施福寺本堂前到着。施福寺での休憩後、長い石段とそれに続く坂道を下りチャーターバスの待つ登山口駐車場へ。全員集合したのち新年会が行われる「いよやかの郷」に向け出発。 記:野原								
連番	601	例会No.	内容	新年会「いよやかの郷」	実施年月日	2015/1/11	担当者	小椋(勝)、杉本(康)、大石	
参加者	小椋勝久、杉本康夫、大石隆生、青木義雄、秋田文雄、安部泰子、池田える子、磯辺秀雄、板谷佳史、上原進一、牛山恵美子、牛山友幸、江本恭子、大西恒雄、小川眞裕美、翁長和幸、片山純江、川崎喜美子、紀伊桒本節雄、紀伊桒本博美、喜多田恵美子、樺田克彦、黒澤百合子、小杉美代子、櫻井宏子、佐藤敏子、杉本栄子、高木恵美子、達健一、辻角ますみ、戸田晴子、永島健一、西田保、西村晶、西村美幸、野原勇、藤田喜久江、保木道代、堀木宣夫、前田信子、真下好雄、榊田誠寛、松田芳治、實操綾子、三原秀元、村木とも子、村木正人、安本昭久、安本嘉代、山倉康次、横内まみね、吉田伸實、寄川都美子、和田晴次、和田敬子、和田良次、和田都子			参加者数	57				
担当者コメント	「いよやかの郷」での新年会も4回目となると、参加費徴収やレイアウトなどの準備も慣れたもの。参加者も新年会開始までの時間を利用し各自温泉でハイキングの汗を流す。午後1時30分小椋さんの司会で総会の開幕。先ずは新旧代表の挨拶。EPE創立から昨年度までの一番大変な時期を率いてこられた紀伊桒本前代表ご苦労様でした。板谷新代表大変ですが、今後のEPEクラブのかじ取りよろしく願います。その後、泉州山岳会の榊田会長挨拶、昨年度の例会実施状況、会計報告、例会最多参加者表彰等の事業報告と続き、一時休憩後、訴訟事件和解までの経緯報告、新体制についての説明と新役員の発表等を行ないました。新年会では板谷代表の挨拶に始まり、紀伊桒本前代表の乾杯の後宴会に入り、抽選会やその途中での長野県在住の松田さんから地震の体験から非常時に役立つ持ち物の話など、閉会まで大いに盛り上がりました。なお抽選会に永年自作の絵画を提供され続けた和田さんが今回の出品を最後にされるとの発表もありました。ありがとうございました。 記:野原								
連番	602	例会No.	一般385	内容	丹波・安全山	実施年月日	2015/1/18	担当者	板谷、大石
参加者	板谷佳史、大石隆生、杉本栄子、小川眞裕美、安岡和子、寺島直子、神阪洋子、小椋美佐、安本昭久、安本嘉代、黒澤百合子、谷村洋子			参加者数	12				
担当者コメント	列車が三田を過ぎて丹波の領域に入ると車窓からは昨夜の降雪で一面の雪景色となる。霧も出ており雪山が期待できそう。車中でタクシーを予約しておいたら往復ともジャンボタクシーを回してくれ、安上がりな料金になったのは親切な会社でした。登り始めると樹林からの融雪が雨のようになり晴れているのに傘や雨具が必要に。暖かな天気で、当然ながら登山者は少ない山城だから、ブッシュが繁っている箇所もあり、湿った雪に濡れるのを覚悟して突っ込む。山頂直下の稜線を行く頃になると気温も少し下がって雪山を楽しむ。山頂広場でゆっくり昼食をする。霧が晴れてしまい雲海が見られなかったのは残念だが、暖かな陽射しに、日向ぼっこの気分で厳冬の山とは思えず去りがたい。北東方向の尾根を下って賀茂神社を目標にしたのだが、途中で方向を間違え北田井に下山した。 記:板谷								
連番	603	例会No.	一般386	内容	北摂・大船山	実施年月日	2015/1/24	担当者	翁長、杉本
参加者	翁長和幸、杉本康夫、前田守、寺島直子、保木道代、寄川都美子、板谷佳史、杉本栄子、樺田克彦、和田都子、池田える子、藤田喜久江、青木義雄、牛山友幸、村木とも子、岸田暎子、黒澤百合子			参加者数	17				
担当者コメント	当初、予定していた町石道(旧参道)が工事中の為、立入り禁止となっていた。しかたなく、コンクリート道を30分程、北上し大磯登山口より入山する。古いカナディアン・ログハウスが点在している。その間を抜けて登山道はゆるやかに登っていく。大船山への登山道としては最もポピュラーなコースと、本には書かれているだけあって歩きやすい。峠に出てひと息いれる。ここまでは意外と近く感じた。頂上と東南峰のコルまで、落ち葉を踏みながらゆっくりと行く。頂上手前はロープが張り巡らされた急坂を登る事になる。頂上でランチタイムとする。下りは元来た道を峠まで戻り、十倉へと向かうがかなり荒れている。頭ぐらゐの石がゴロゴロして歩きづらい。樹間にため池が見える頃、道は良くなってきた。ため池は小春日和りで明るく、土手の雑草はきれいに刈り取られてサッパリしている。少しオーバに云うと、エメラルド・グリーンの水は風がないので鏡のようになっている。その水面に落葉した白い木々が逆さまにうつり、誠に美しい。大船山の正池だ。2つ目、3つ目とため池を過ぎ十倉バス停へ。タクシーを待つ間に後を振り返ると、先程登ってきた大船山が良く見えた。三角形の姿は中々見栄えが良かった。 記:翁長								
連番	604	例会No.	OP207	内容	東北スキー場巡り、その8・安比高原スキー場	実施年月日	2015/1/25~28	担当者	紀伊桒本(節)、大西(恒)
参加者	紀伊桒本節雄、大西恒雄、西村晶、大石隆生、和田良次、上原進一、達健一、安本昭久、安本嘉代、和田敬子、紀伊桒本博美、片山純江、脇本勇二			参加者数	13				

2015年度('14/11~'15/10)EPEクラブ活動報告

2015/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>始めに今回の例会予告「雫石スキー場」が諸般の事情から急遽「安比高原スキー場」に変更しましたことをお詫びいたします。かねてより、東北各地のスキー場の運営について危惧しておりましたが、今回、現実には相当厳しいものだと実感しました。その意味では安比高原も同じ範疇で、セカンドゲレンデでは危うい予感が頭を過ぎります。さてもさて、昨年の私は生意気にもスキー例会のコメントに「スポーツの進歩に用具の改革は欠かせない、高齢者こそ用具の進歩改革の恩恵を受けて、少しでも長く安全にスポーツを楽しみましょう」と書きました。私事に亘り恐縮ですが、実はそのあと自身の気持ちの失せぬ内に、早速、ロッカースキーを購入しました。ロッカースキーとは何か、関心をお持ちの方は是非、昨年のコメントをお読みください。そして今年です、うれしいことに3日目に新雪に恵まれました。とは言っても私の実力では圧雪されたゲレンデの上の新雪です。でも、あっと感じる事が出来ました、私の足にした板はまるで荒馬の様にぐいぐい私を持ち上げてくれました。確かにロッカースキーの効果ありと報告します。EPEの皆さん、スキーは楽しいスポーツです。スキー例会には毎回10名以上の参加者が集まり、今回で延20回に亘り楽しんでます。その事実をホームページのスキーシリーズでお確かめください。そして皆さん、ぜひ新たな挑戦、新たな再挑戦を試みてください。きっとそこに新しい世界を発見します。滑ったことがないから、昔はやっていたではもったいないです。どなた様も今この機会が待っています。歓迎いたします。 記:紀伊壱本(節)</p>									
連番	605	例会No.	一般387	内容	六甲・再度山～菊水山	実施年月日	2015/2/1	担当者	野原、小椋(勝)	
参加者	野原勇、小椋勝久、江本恭子、小椋美佐、青木義雄、保木道代、安岡和子、杉本栄子、小川眞裕美、和田都子、片山純江、安本嘉代、岸田暎子、谷村洋子、安本昭久							参加者数	15	
担当者コメント	<p>六甲山を歩いていて、毎日登山をしていると思われる個人やグループのほか、記帳所となっている茶店等を見ることが出来ます。その毎日登山のルーツと言われる善助茶屋跡を訪ねる例会を今回実施しました。毎日登山が発達している六甲山では、目的地に達するコースもアプローチ方法も一つだけではない。善助茶屋跡に至るコースも同様です。今回は最もオーソドックスな大師道をとったが、最初から大師道を歩いたのでは面白くない。諏訪山公園へ寄り道をしてから大師道へ入ることとした。元町駅を出て神戸の市街地が一望できる諏訪山公園を経て、大師道に入り狸ヶ池へ。狸ヶ池から5分程度歩いた地点から脇道へ入り10分足らずで善助茶屋跡に到着。「毎日登山発祥の地」と大書された大きな石碑に迎えられる。その後、大龍寺の本堂を経て再度山頂上へ登る。六甲全山縦走路が通る大龍寺であるが、再度山頂上は縦走路コースからは外れており頂上に立つのは私自身今回が初めて。鍋蓋山から菊水山へは一旦天王吊橋まで下降する。この二つの山に登るには西から東へ向かうのが定番だが、今回初めて逆方向に歩いたことで気づいたことがある。「楽だ！」ということ。最も苦しい菊水山や鍋蓋山の登りが、当たり前のことだが逆方向からだると下りになる。山だけに限らないが、当たり前だと思っていた今までのやり方を変えること、見方を変えることでハッとすることがある。鶴越駅横の広場で解散。寒風吹きすさぶ寒い中、参加の皆様お疲れ様でした。 記:野原</p>									
連番	606	例会No.	一般388	内容	湖北・小谷山と長浜盆梅展	実施年月日	2015/2/7	担当者	大石、野原	
参加者	大石隆生、野原勇、杉本栄子、保木道代、板谷佳史							参加者数	5	
担当者コメント	<p>雪中ハイキングを予定していましたが、立春を過ぎたせいなのかそれとも寒の一時みなのか、ほぼ雪が消えた無風の尾根を辿る日だまりハイキングになりました。下山後の盆梅展では、ほのかに漂う梅の香りを感じる春を感じました。長浜駅からのタクシーを小谷城址登山口で降り、城址の遺構を辿る尾根筋の登山道を登っていく。遺構ごとにある説明を読みながら進むうちに本丸跡に着き、最上部の山王丸跡から清水谷への分岐があるコルへと下る。ここからは丸太の階段登りとなり、一面に雪が残っている小谷山頂上に着く。下山は往路を戻る予定でしたが、登山口で貰った観光地図にも載っている清水谷右岸の尾根を郡上の集落へと乾いた落葉の道を下り、バスが来るまで時間があるので歩いて河毛駅に向かいました。長浜駅に戻り、盆梅展のある慶雲館へ。座敷に並べられた鉢植えの梅の巨木・老木に圧倒されながらも芳香を楽しみ、春を先取りする動と静の一日でした。 記:大石</p>									
連番	607	例会No.	一般389	内容	ベーシック登山No.29 六甲・ゴロゴロ岳～観音山～甲山	実施年月日	2015/2/14	担当者	翁長、板谷、秋田	
参加者	翁長和幸、板谷佳史、秋田文雄、和田良次、和田敬子、紀伊壱本博美、實操綾子、戸田晴子、寺島直子、安岡和子、保木道代、牛山友幸、牛山恵美子、藤田喜久江、三原博子、片山純江、村木とも子、安部泰子、江本恭子、戸松みつえ、安本昭久、青木義雄、岸田暎子、樺田克彦							参加者数	24	
担当者コメント	<p>この例会で一番気がりだったのが「駅から登山口へ」、「下山した所から駅まで」という街なかの遭難でした。登山地図とは別に拡大した市街地図を持っていったのですが、駅の改札口を出たところで、既に迷子状態に。今日の参加者の中に地元の会員がいた。助かった。今回は彼を先達(せんだち)としてお願いし後に続く。開発等で少し地図とは変わっていたようだ。車道を避け遊歩道に行く。緑化植物園でトイレ休憩とする。途中には中国風の建物、小川、四阿(あずまや)をしつらえてあり、よく整備された気持ちの良い散策コースであった。山道に入って少し開けた所で、本日のサブテーマである歩行術のミニ講習をする。こう書けばおかげさな感じがするが、ミニのつく講習なのでポイントのみに。「斜面を安全に降るすべ」を最も伝えなかったが、実際にやってみせる場所がなく、次回という事にした。頂上手前の鉄塔で小休としゴロゴロ岳へ。三角点のヨコ4～5mのところは民家の塀と庭で、せんたく物がはましてある。少々興奮させるが六甲山はこんなもの、と自分に言い聞かせてランチタイム。標高は565.6mではなく最近の計測で565.3mとなったようだ。観音山へは多少分岐があるので注意深くたどる。頂上からは北山貯水池、甲山、さらに大阪市内、宝塚、三宮と一望できる。なかなか気分が良い眺めだ。鷲林寺を通り北山貯水池南側から甲山へ。この甲山は大阪近辺では珍しい火山だそう。兜のようにポコッと突き出たような山です。ふもとの神呪寺(かんのうじ)山門で解散しました。今回は、山はさておき緑化植物園、弘法大師開祖の鷲林寺、きれいに整備された大小の貯水池等々が、印象深く記憶に残っています。 記:翁長</p>									
連番	608	例会No.	一般390	内容	南葛城山	実施年月日	2015/2/22	担当者	西村(晶)、板谷	
参加者	西村晶、板谷佳史、黒澤百合子、保木道代、安岡和子							参加者数	5	

2015年度('14/11~'15/10)EPEクラブ活動報告

2015/10/E現在 板谷

担当者コメント	前日の天気予報では昼すぎより雨の予報でした、滝畑のバス停に降りると小雨が降り出す。雨中での登山はあまり好きではない、私の心のように黒い雨雲が広がっていた。千石谷沿いの林道を進み対岸の関電道に入る、急な登りであるが良く踏まれた道を登り中腹のノゾキ平で小休止、薄日も差し込む天候となる。対岸にはすすきが生い茂る岩湧山が良く見える。笹の生い茂った杉林を登りつめると南葛城山の頂上に出ました。林道歩きを1時間程で岩湧山の分岐点に出る、三合目より砥石谷を下る予定でしたが工事中に付き通行止め為、ボ谷に向かって歩く。昼から雨の予報であったが、雨にも遭わず、登山者にも会わずに静かな山歩きを楽しむ事が出来ました。 記:西村(晶)									
連番	609	例会No.	OP208	内容	第13回スキーカーニバル北海道イン・ニセコノーザンリゾート・アンスプリスキー場	実施年月日	2015/3/1~4	担当者	紀伊榎本(節)、西村(晶)	
参加者	紀伊榎本節雄、西村晶、大石隆生、和田良次、上原進一、安本昭久、安本嘉代、和田敬子、紀伊榎本博美、片山純江、脇本勇二								参加者数	11
担当者コメント	同じところをぐるぐる回るスキーのどこが面白いのだろうか？山登り屋さんには得てして敬遠します。機会を得ぬまま偏見をもつのは残念です。本格的な冬山にスキー技術は不可欠ですぞ、とは云ってもそんな理屈はすべて世迷い事、実はスキーは滑る事そのものが面白いのです。子供心に還る楽しさは無二なのです。だから止められない。ロッカースキーが評判のようです。今回で愛好者が4名になりました。違う玩具を与えられた子供のようにはしゃいでいます。たしかに、この用具は有効です。例えば、昔々単板にカンダハーで乗った頃に比べるとまるで別物です。しかし、元から滑る楽しさは変わりません、子供の頃の竹ゾリで滑った愉しさも同じです。どうでしょう、昔のわんぱくに戻ってみませんか、それが輪廻？と云うものです。初心者も再開者もEPEスキーは大歓迎です。そしてひとりでも多くの人に、子供心に還る楽しさをお手伝いさせていただきます。 記:紀伊榎本(節)									
連番	610	例会No.	一般391	内容	紀泉高原・三峰山	実施年月日	2015/3/1	担当者	小椋(勝)、翁長	
参加者									参加者数	
担当者コメント	雨天中止									
連番	611	例会No.	一般392	内容	一徳防山	実施年月日	2015/3/8	担当者	大西(恒)、小椋(勝)	
参加者	大西恒雄、小椋勝久、青木義雄、和田都子、西村晶、西村美幸、小椋美佐、安岡和子、保木道代、前田守、江本恭子、神阪洋子、杉本栄子、小川眞裕美、安本昭久、安本嘉代、寄川都美子、牛山友幸、牛山恵美子、小原武尚、池田える子								参加者数	21
担当者コメント	前夜の雨音、朝の空模様で天気予報を何度も確認した。集合場所に行かないと参加者の判らない一般例会ではこんな天気が一番厄介だ。一般例会の考え処である。河内長野駅の滝畑方面行きバス停には、ハイキング支度のそれらしい人が集合時間近くなると増えてくる。この方面に行くのは我々だけではないらしい。コミュニティバスは満杯状態であった。中日野でバスを降りたのは我々と同じ様な格好のもう1グループのみであった。紛らわしいので我々は登り口まで少し歩いてEPE参加者を確認する。その間に先ほどのグループが先行して行った(後で我々が先行することになる)。小池の前から右の林道をとるすぐの分岐で左の尾根道へ入る。尾根道というよりも深い溝の中を歩く様な状態でゆるゆる登ると少し尾根らしい所を行くようになる。ガイドブックにある様に主稜(?)の鞍部につく頃にはすっかり汗ばむ。はっきりしない尾根に岩(これが見晴らし)が出てきて漸くルート通りに進んでいることを納得する。そのまま尾根を進み急な階段(小さな親切、大きなお世話!)を登ると一徳坊山の標識のある山頂であった。山頂名を確認して鉄塔のある広場まで行き昼食休憩。ルートに戻り三角点を目指す。降り口のコルを通り越して本当の三角点(544m)を確認に行く。コルに戻り二ノ坂峠への尾根道を下る。緩やかな降りにアクセント的に所々でのぼりが出てくる(これがこたえる)。二ノ坂峠を過ぎて更に進むとゴルフ場に到着ここで山歩きは終わる。少し先のバス停には丁度発車間際のバスあり、バス待ちもなく順調にハイキングを終えた。里に近い里山へのハイキングとはいえ、少し参加者には手応えのないハイキングであったかもしれない。 記:大西(恒)									
連番	612	例会No.	一般393	内容	北摂・高岳	実施年月日	2015/3/15	担当者	野原、板谷	
参加者	野原勇、板谷佳史、青木義雄、神阪洋子、寄川都美子、寺島直子、保木道代、杉本栄子、牛山友幸、牛山恵美子、岸田暎子、谷村洋子								参加者数	12
担当者コメント	杉生バス停から東に車道を辿り、猪名川変電所に至る。因みにこの変電所は福井の高浜原発の他、京都の舞鶴や宮津の火力発電所から兵庫や大阪への送電ルートとなっているとの事です。アクション映画のロケにも使えそうな巨大な変電所に目を奪われる。ブーンという空気を震わせる音に「凄い！」の言葉しか出ない。猪名川不動尊までは傷みの目立つ簡易舗装の林道をテクテクと歩いていくと到着。猪名川不動尊はその昔、時の鎌倉幕府第5代執権北条時頼が滞在したことから地名が「鎌倉」とも呼ばれているとのことです。境内にはお堂や落差10m程度の滝のほか、最近は見かけることも稀な二宮金次郎像もあった。高岳までは特に記すようなこともない平凡な登山道を登り、紅白に塗られた鉄塔が立つ頂上へ。頂上で昼食大休止。展望なし。昼食後、急坂でかつ深くえぐられた道を下る。一体この溝は何？という感じ。下る途中でルートを間違えてしまった。歩いている途中で間違いに気が付いたが、中山峠へ下ることに変更。中山峠に到着した時点で、スタート地点の杉生が近いので戻ろうかとも一瞬考えたが、距離的にはやや長くなるが歩いたことのない森上へ向かうことにした。車道歩きが長すぎましたが、天気は曇りながら今日は寒さも緩み、歩いているとポカポカと春を感じる山歩きの1日でした。 記:野原									
連番	613	例会No.	OP209	内容	金剛山地～和泉山脈 ロングトレイル・前半	実施年月日	2015/3/13~15	担当者	西村(晶)、有永	
参加者									参加者数	
担当者コメント	中止									
連番	614	例会No.	一般394	内容	奈良・三郎ヶ岳	実施年月日	2015/3/22	担当者	杉本(康)、野原	

2015年度('14/11~'15/10)EPEクラブ活動報告

2015/10/E現在 板谷

参加者	杉本康夫、野原勇、和田都子、佐藤敏子、寄川都美子、池田える子、村木正人、青木義雄、村木とも子、翁長和幸、小杉美代子			参加者数	11				
担当者コメント	室生古道を春ののどかな日差しを浴びながら、のんびりと仏隆寺へと歩く。集落を抜けても舗装道路はまだまだ続く。小峠から登山道に入り高城山まで登ると「右方向は生駒山から左方向は大峰・大台までの山々が見渡せる」と展望板にあるが、残念ながら目の前に木が茂りそれが無ければ素晴らしい眺望が楽しめるのに残念だ。30分余りで三郎岳に到着、ここは高城山にも増して遮るものがほとんどなく眺望がすばらしい。頂上で昼食休憩とするが、天気も良く暑いぐらいだ。開明寺奥ノ院へ下る途中で磨崖仏が彫られていて、昔の人はすごいなと尊敬させられる。いったん血原橋方面へと下り、本伊勢街道から石割峠へいく。石割峠は伊勢本街道の難関と言われ、高度も695mで生駒山の642mより高い。腰を下ろす所もないほどの狭い切り通しで、こんなところで追いはぎにでも会えばひとたまりもないだろう。昔の街道らしい名所・旧跡が至る所にあり、それを見ながらのハイキングもまた楽しいものだ。 記:杉本(康)								
連番	615	例会No.	OP210	内容	伯耆・大山	実施年月日	2015/3/21~22	担当者	板谷、村浪
参加者	板谷佳史、村浪義光、安部泰子(泉州山岳会)、寺島直子、小川眞裕美、安岡和子、小椋美佐、神阪洋子、黒澤百合子、保木道代			参加者数	10				
担当者コメント	3月21日 高速バスは走り出してすぐ阪神高速が事故渋滞のため50分程の遅れ、そのままの遅れで登山口へ。気にするほどのロスでなかったのが幸い。車で先に来て待っていてくれた村浪さんと登山口で合流し、後は順調に高度を上げる。しんどい登りの後でもあり少々つらい雪面整地という土方仕事をこなして、予定どおり六合目上部付近にテント設営する。なんと1ダースの缶ビールを担ぎ上げてくれた村浪さんに感謝しつつ賑やかに過ごす。3月22日 テント地より約1時間のアルパイトで弥山山頂に立った。無雪期に大山山頂とされている場所は仮に作られたものであり、三角点でもなんでもない。地形図上で弥山(1709.4m三角点)とされた場所へは侵入禁止のロープが張られておおっぴらには行けない。積雪期の今ならロープは完全に埋まっており境界は不明ゆえ弥山三角点にも自由に立つことができる。稜線の崩壊が激しいという理由で頂上稜線の縦走はこれも無雪期はおおっぴらには禁止されている。積雪の有る今は魅惑的な雪稜が続いているように見える。少し足を延ばしてみることにしたが途中「らくだの背」と呼ばれるナイフリッジは雪が溶けて完全にグズグズの地肌が現れており、そこで断念、引き返した。今回は二日間とも好天に恵まれ、ほとんど風も無く、手袋も要らないぐらいの暖かさで皆さん余裕を持っての登山になりました。しかし、決してこれが通常とは思わないで、たまたまの好条件に当たっただけです。今後も初心を忘れず慎重な行動を続けたいものです。 記:板谷								
連番	616	例会No.	OP211	内容	敦賀・木の芽峠、越前朝倉遺跡 歴史探訪No.27+αNo.13	実施年月日	2015/3/28~29	担当者	紀伊莚本(節)、小椋(勝)
参加者	紀伊莚本節雄、小椋勝久、大石隆生、村浪義光、松田芳治、樺田克彦、上原進一、安本昭久、牛山友幸、和田良次、村木正人、青木義雄、紀伊莚本博美、池田える子、和田敬子、村木とも子、寄川都美子、實操綾子、戸田晴子、喜多田恵美子、横内まみね、杉本栄子、高木恵美子、牛山恵美子、安本嘉代			参加者数	25				
担当者コメント	3月28日 今庄スキー場の駐車場に午後3時15分に下山しました。予定ではこのあと、江戸期のの街並を残す今庄宿場の散策をすることになっていましたが、峠越えの登山が思わぬ充実したものとなり止むなく町の小さな造り酒屋に直行しました。天狗党の面々もこの宿場の美酒に至福の喜びを表したそうです。これを飲ませて天狗党への供養といたしました、嗚呼！ 3月29日 朝倉遺跡とともにその背後の城跡、一乗城山(435.7m)に登る計画でした。しかし残念ながら雨天の為中止しました。その分ゆっくりと発掘された城下町を散策できました。「国破れて山河あり、城春にして草青みたりと、笠打敷きてときのうつるまで、涙をおとしはべりぬ。」芭蕉、奥の細道の一節です。実りある1日でありました。 記:紀伊莚本(節)								
連番	617	例会No.	一般395	内容	葛城山系・石橋山	実施年月日	2015/4/5	担当者	翁長、西村(晶)
参加者	雨天中止			参加者数					
連番	618	例会No.	OP212	内容	金剛山地と和泉山脈を結ぶロングトレイル後半	実施年月日	2015/4/10~12	担当者	西村(晶)、有永
参加者	西村晶、有永寛、小川眞裕美、安岡和子、小椋美佐、保木道代、江本恭子、板谷佳史			参加者数	8				
担当者コメント	大鳴温泉より加太まで、2泊3日で歩くロングトレイルコースを10Kg強の装備と食料をザックに入れて歩くには、折れない気力と体力が必要です。国土地理院の地図を広げると3枚にもなり、東西に伸びる尾根が加太まで続き、ロングトレイルの名にふさわしいコースである。一日の歩行時間は8時間程で泊まる所は駅の近くを考え、トラブルが発生しても対応が出来て継続が可能な場所を選びました。登山道は登り降りばかりは無いが、歩行距離が長くなるので足の負担を考えて、朝のワンピッチはいつもよりゆっくりと歩く事を心がけて足の負担を軽減して体調を整えてから後半でピッチを上げて歩くように心がけました。長い縦走だから苦しい事ばかりであったと、みんなが思わなかったはずである。長くて苦しい登りに喘ぐ事があっても、雨がやみ薄日が差し込めた景色を見るとおおー、ええなーと歓声の声が上がる。水滴がきらめく、ピンク色に輝く三つ葉つづじに囲まれた山道を歩く自分が嬉しいと感じました。初日は、一日中降りやまない雨の天候で、身体も湿ってしまい、雨傘に降り注ぐ雨音に気持ち落ち込みましたが、2日目より天候も回復して躍動派の私は充実の3日間でした。追記、11日の宿泊地は出来る限り加太に近い所、孝子駅周辺と思っていました。孝子札立分岐より高野山を下り、高仙寺にたどり着くと、「休憩所」ご自由にご利用下さいの表示があり中を覗くと畳が敷かれた小部屋でした、有永さんが向かいの建物に住職が居られるので宿泊をお願いすると、総代に連絡していただき、総代夫妻が集落より上がって来られ宿泊をお願いすると心良く宿泊させて頂く事が出来ました。濡れた物を階段の所で干していると、養生シートを広げていただいたり、飲み水を頂いたりして、総代夫妻の温かい心の優しさにふれ、心の豊かさを感じました。 記:西村(晶)								
連番	619	例会No.	一般396	内容	湖南・鶏冠山～竜王山	実施年月日	2015/4/11	担当者	杉本(康)、大西(恒)
参加者	杉本康夫、大西恒雄、小原武尚、青木義雄、安本嘉代、寺島直子、近藤さとみ、小杉美代子			参加者数	8				

2015年度('14/11~'15/10)EPEクラブ活動報告

2015/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>金勝アルプスと言われる山域は花崗岩の奇岩がいたる所に現れ、見る者の眼を楽しませてくれる。栗東市のホームページで金勝山ハイキングコースとして紹介され、地元では身近な山として親しまれている。金勝アルプスのルート名はなぜか鉄道のように「線」と呼ばれていて、今回は落ガ滝線、北峰縦走線、狛坂線と通るルートをたどった。まずは落ガ滝線を通して30分ほどで落ガ滝に到着。道すがら濃いピンク色のコバノミツバツツジの花も咲き始め春が感じられる。落ガ滝は普段はほとんど水量が無いそうだが、今日は朝までの雨で迫力のある見事な滝になっている。鶏冠山への登りは山名のとおり何度かのアップダウンを繰り返し頂上に到着する。頂上は小さな広場になっていて、木々の間から三上山、栗東のJRAトレーニングセンターが望まれる。元来た道を落ガ滝線の合流点まで戻り、ここからラクダの背のような細い岩のコブを越えたり、天狗岩や耳岩などの奇岩眺めながら変化に富んだ尾根歩きで竜王山に到着。この頃から風が出てきたが、頂上は1mほどのササに覆われ座ると風が避けられ、寒さを気にせず昼食をとることができた。白石峰から狛坂線を下り、国見岩は展望が素晴らしく琵琶湖や新名神高速道路、右方向には今登ってきたルートの奇岩群が望まれる。狛坂寺跡では平安時代に作られたといわれる狛坂磨崖仏が見られ、林道の横には白い花のオオカメノキがあらこちらに咲いている。上桐生のバス停車前にはオランダ堰堤と言われる堰堤があり、明治15年にオランダ人技師デ・レーケの指導のもと、築かれ歴史的土木施設として価値があるそうです。今日は雨も止んで晴れ間も出ると期待していたが、あいにく太陽はほとんど出ず、北風も吹き寒い1日でした。記:杉本(康)</p>											
連番	620	例会No.	一般397	内容	琵琶湖疏水から大文字山南禅寺実施年月日	2015/4/19	担当者	小椋(勝)、野原		参加者数		
参加者												
担当者コメント	雨天中止											
連番	621	例会No.	OP213	内容	高島トレイル-2 大谷山~大御影山山~武奈ヶ嶽	実施年月日	2015/4/25~26	担当者	板谷、村浪		参加者数	
参加者	板谷佳史、村浪義光、寺島直子、保木道代、安岡和子、小川眞裕美、江本恭子、谷村洋子、近藤さとみ、安本嘉代											
参加者数	10											
担当者コメント	<p>これでもか、というほどの快晴続きでした。高島トレイルの縦走路にはこれでもか、というほどの新緑と花々が溢れていました。今回歩いた区域の最初は人気の赤坂山の登下山路と重なって人が多かったのですが、寒風から先へ行くと近江坂出合までほとんど人と出会いません。近江坂を使った大御影山のみへの往復登山者はかなりいる。大御影山から先は、途中三重嶽~武奈ヶ嶽間が石田川ダムからの日帰り登山者で賑わうのみで、それを過ぎると全くと言ってよいほど人がいません。そのぶん静かな山に浸れます。個人的にはトレイル全長のうち主だったピークにはすべて立ちましたが、通しの縦走はできていませんので新鮮な気分で歩きました。来月の例会「高島トレイル-3(赤坂山~黒河峠)」を合わせると、北半が完成します。水坂峠から先に南半約40kmが残っていますので、あと2回の例会を企画して完走を目指します。記:板谷</p>											
連番	622	例会No.	一般398	内容	ベーシック登山No.30 北摂・天台山 テーマ:地図の初歩	実施年月日	2015/4/26	担当者	秋田、小椋(勝)		参加者数	
参加者	秋田文雄、小椋勝久、高木恵美子、紀伊壱本博美、青木義雄、岡本佳久、寄川都美子、西村美幸、和田敬子、牛山友幸、牛山恵美子、池田える子、藤田喜久江、喜多田恵美子、和田都子、佐藤敏子、杉本栄子、磯辺秀雄、横山寿夫、西村晶、安本昭久、岸田暎子、辻角ますみ											
参加者数	23											
担当者コメント	<p>今回の例会は昨年の青貝山の例会が雨で中止の為そのリベンジの山行です。阪急バス停余野を(10:20)出発車道を少し進むと信号を左に423号線余野信号と余野橋を渡りJA大阪北部能勢を左に。しばらく歩いてから山に入るが標示も無く余野から登る人が少ないかも。ルートは地図と送電線を頼りに落ち葉道の分りにくい山道を稜線に。鉄塔(11:30)から光明山へは約20分で山頂に(11:50)。光明山から下ると車道に平行して行くが車道にでて左折して峠に天台山はこれより山道を登ると山頂に。大きなアンテナの鉄塔の下にでる。天台山(640m)の三角点(13:20)は鉄塔の奥にうす暗い植林の中に。鉄塔に戻り遅い昼食を。今日のテーマ(地図の初歩の講習)小椋さんに(地図の基礎知識)磯辺さんに(地図の楽しさ)西村さんに(GPSの活用)をテーマに話をしてもらい講習を終わりました。天台山から下山路に南尾根に入りやすいので方向と地図を確認すれば分岐には白いテープを木に巻いてある。このコース全体に展望が利かないが尾根道を下山。妙見駅分岐を経て青貝山(391m)山頂に(15:07)。三角点は静かな展望のないところ。この時期新緑が木洩れ日を浴びて清々しい気持ちで下山。吉川峠と東ときわ台の車道に読図の為あえて東ときわ台に。メンバーから指摘有りましたが、後方リーダーから声が掛かりました。「先頭のリーダーが間違えばリーダーでなくてもルートの確認をしよう。」そこから引き返し吉川峠を経て長閑かな里山をのんびり妙見駅(16:25)に着く解散。このルートは余野から登る人も標示も少なく展望も悪くルートも分りにくいので一般的に妙見山より人気がないが、とても静かな人にあわないのんびりした。里山本来の味わいのある山です。一度行ってみてください。記:秋田</p>											
連番	623	例会No.	一般399	内容	大和・龍王山	実施年月日	2015/4/29	担当者	杉本(康)、翁長		参加者数	
参加者	杉本康夫、翁長和幸、牛山友幸、青木義雄、西村晶、藤田喜久江、和田都子、寄川都美子、西村美幸、保木道代											
参加者数	10											

2015年度('14/11~'15/10)EPEクラブ活動報告

2015/10/E現在 板谷

担当者コメント	柳本バス停付近には、三角縁神獣鏡33面が出土して一躍有名になった黒塚古墳がある。バスの車窓からもいたる所に古墳など見られ、いにしへの奈良の都がしのばれます。竜王山は古事記にも歌われている大和青垣の山々で一番高く、三角点のある山頂には中世の豪族、十市氏によって山城が築かれていた。西方を眺めると二上山から金剛山まで、北方は奈良市内や春日山、京都方面、南方は三輪山が望める。今は木々が茂っているが、当時は360度見わたせたであろうこの地に立つと中世の武将気分ひたれる。龍王山から東方に進んでいくと、以前にEPEの例会が持たれた笠そばの看板が出てくる。初瀬山への林道に入りしばらく行くと道が消え、久しぶりに地図と磁石を出してルートの確認をする。標識のある山と違って少し真剣になった場面です。初瀬山(「はせやま」と読むそうです)には三角点もなく標識があっただけで見晴らしもなく登ったという気持ちだけです。後は長谷寺までは初瀬ダムが左手に見られ尾根道を下る。長谷寺では『ぼたん祭り』が開催され山門までの参道には赤や黄や白色のぼたんの花が見事に咲き誇っていました。 記:杉本(康)								
連番	624	例会No.	OP214	内容	鈴鹿・入道ヶ岳～宮指路岳	実施年月日	2015/5/2～3	担当者	板谷、山倉
参加者	板谷佳史、山倉康次、小川眞裕美、安岡和子、江本恭子、神阪洋子、谷村洋子、小杉美代子							参加者数	8
担当者コメント	2013年12月の例会で仙ヶ岳～宮指路岳への縦走に挑戦したが、意外な積雪量に阻まれて完遂できなかった。そのリベンジも兼ね今回は入道ヶ岳からの逆回り宮指路岳を巡るコースで計画した。8時間を超える長丁場でしたが、皆さんがんばって予定どおりのコースを完歩できました。鎌ヶ岳以南の縦走路やそれにつながる尾根は鎌尾根に代表されるように、岩稜や風化した花崗岩の崩壊地となっている個所が多く、今回のコースもそうだが、アルペン的な雰囲気と適度なスリルも味わえ退屈しないルートが多い。おまけにこの季節であれば、花も期待できる。入道ヶ岳と宮指路岳周辺で人と出会っただけで、我々のようなロングコースを辿る人はまれなので、連休中とはいえ、静かな山行ができました。 記:板谷								
連番	625	例会No.	一般400	内容	六甲・摩耶山(698.6m) +アルファNo. 14	実施年月日	2015/5/5	担当者	紀伊莚本(節)、大石
参加者	紀伊莚本節雄、大石隆生、西村晶、西村美幸、安本昭久、安本嘉代、青木義雄、和田都子、池田える子、小杉美代子、牛山友幸、和田良次、和田敬子、喜多田恵美子、紀伊莚本博美、和田晴次							参加者数	16
担当者コメント	ご存知でしょうか、EPEクラブの設立趣旨のなかに「登山やスキー、ハイキング等の野外活動と、歴史探訪や芸術鑑賞もその視野に入れていきます」と述べられています。そして今日初めて、プラス・アルファ14回目にして食べ歩きを一步出しました。和田(晴次)さんは、EPEクラブの設立間もないころから毎年の新年総会に一枚の絵を寄贈されています。宴たけなわの抽選会でその絵を仕留めんとひと騒ぎする光景は楽しいものです。最初にどんな経緯で頼んだのか、頼んだ私ですら忘れてしまった今、既に贈られた絵は9枚になると聞きました。その一枚一枚は毎年、誠実に精魂込めて画かれたもので、彼の性格(お許しあれ、彼と私は共に最初のザイルパートナーであることに免じて)からして、出来上がった作品に彼の姿が滲み出ています。彼は今年、傘寿を迎えました。残された時間をさらなる制作に没頭したいがため、毎年の寄贈を止めさせてほしいと申し出がありました。ここにきてうかつな私でもハッと気が付きました。なんと無神経な頼みをそのままにしていたことか、申し出を感謝とともに受けましたことは言うまでもありません。かくしてささやかなお礼を込めてこの例会を仕組みました。彼の益々の精進と活躍を念じるばかりです。そして、あえて「まだ80歳ではないか!」と喝を入れましょう。彼の内なる炎の続くかぎり、いつまでもがんばってもらいたいと思います。 記:紀伊莚本(節)								
連番	626	例会No.	一般401	内容	高島トレイルー3 湖北・赤坂山 ～三国山	実施年月日	2015/5/9	担当者	大石、西村(晶)
参加者	大石隆生、西村晶、板谷佳史、佐藤敏子、保木道代、近藤さとみ、村木正人、村木とも子、和田都子、池田える子、藤田喜久江							参加者数	11
担当者コメント	マキノ駅からのバスを降り、オフシーズンでグラウンド・ゴルフ場に模様替えしたゲレンデを横目に登山口へ。ほどよく整備された登山道を辿ると沢沿いとなり、イワカガミの群落やイカリソウ、カタクリ、その他不勉強ゆえに名も知らぬ花があちらこちらに咲いている。その可憐な姿を追ううちに笹原の斜面となって赤坂山の頂上へ。人気のある山とあって、金剛山や六甲山ほどではないが大勢の登山者がいる。適当なスペースでお昼休憩。晴れていれば若狭湾から琵琶湖まで一望できるはずだが、あいにくの曇り空で霞んでいてよく見えない。休憩後、灌木の斜面を下り、ザレた明王ノ禿を通過して雑木林に入ると遅咲きのタムシバ?が。足下にはイワウチワ(トクワカソウ)が咲いていた。寄道の三国山の登りではドウダンツツジも。ただし、まだ蕾で葉と同じ色なので、注意深く見ないと見落としてしまう。三国山の頂上は狭く、先行グループを追い出すように場所を譲ってもらう。展望は、北方向以外は雑木に囲まれていてよくない。もと来た道を戻り、分岐点から黒河峠へ。ここからは、日差しが戻った林道を白谷温泉のバス停へと下っていく。 記:大石								
連番	627	例会No.	一般402	内容	比叡山系・魚の子山	実施年月日	2015/5/10	担当者	杉本(康)、翁長
参加者	杉本康夫、翁長和幸、樺田克彦、青木義雄、寄川都美子、笠松マサエ、小原武尚、黒澤百合子、安本嘉代、安本昭久、杉本栄子、古松育代、駒井万生子							参加者数	13

2015年度('14/11~'15/10)EPEクラブ活動報告

2015/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>比叡山の北方稜線に変わった名前の山があった。昭文社の地図には山名が表示されているが、国土地理院の地形図には山名がなく、山名の由来を調べるもわからない。登山道がないので、地図を見て現地確認をしながら歩かないと林道があるものの、とんでもない所に出てしまう。さぞかし登る人はあまりいないと思っていたとおり、誰にも出会うことがなかった。還来(もどろき)神社前でバスを降り、林道をしばらく進んで右手の尾根に取付く。ここからすでに登山道がない、あるのは植林地の作業道だけだ。それもだんだん薄くなって標高400m付近からは作業道も消える。所どころにあったピンクのテープもなくなり、宮メヅラまでの高差約150mを登りやすい所を探しながらトラバース気味に高度を上げていく。植林地の中で雑木がないので助かるが、右に振りすぎ山頂北側の稜線に出てしまう。山頂は広場状になっていて手作りの標識があるだけだ。ここから魚の子(いのこ)山までは踏み跡があり、植林の中で直射日光が当たらず、心地よい風に吹かれ気持ち良く歩ける。魚の子山の山頂は平坦で三角点があるが、山名板が木にくくり付けられているだけで、ここにもほとんど人が入らないことがうかがい知れる。P532m付近は枝打ちされた枝が大量にあって、足を取られて転倒する危険があるので横の林道にエスケープする。約100mで稜線に戻り小出石峠に出る。昔はこの峠を通過して人々が往来したであろうが、今はその痕跡が残っている程度だ。伊香立峠は林道跡があるが、人しか通れないぐらいの幅になっていて、全然補修されていないようだ。「林道も放置されるとこのような状態になるのだなあ」とさびしい気持ちになる。ゴルフ場横に出るまでの道すがら、きれいなピンク色をした九輪草の花が至る所に咲いて、山行の最後を気持ちよく飾ってくれました。 記:杉本(康)</p>								
連番	628	例会No.	OP215	内容	野坂岳、蝶螺ヶ岳、西方ヶ岳	実施年月日	2015/5/16~17	担当者	西村(晶)、板谷
参加者	西村晶、板谷佳史、小川眞裕美、安岡和子、保木道代、江本恭子、小杉美代子、村浪義光、寺島直子							参加者数	9
担当者コメント	<p>野坂岳、西方ヶ岳、岩籠山は敦賀三山とよばれています、敦賀駅の南西に見えるどっしりとした山が野坂岳で、敦賀在住の村浪さんが良く登られている山です。お天気が良ければ、若狭湾周辺の山々と白山連峰が望める予定でしたが、天候の回復が遅く白いガスに包まれた頂上でした。敦賀湾を一望しながら半島の蝶螺ヶ岳より西方ヶ岳への縦走は、昨日の雨も上がり晴天に迎えられるの登山日和となりました。標高がゼロに近い所から登山が始まりです、村浪さんの先達で高度を上げて稜線まで、長命水で喉を潤し、蝶螺ヶ岳に向かう。前日の雨のおかげで新緑の木々のまぶしさに感激しながら、眼下に広がる敦賀湾の美しさに感動しながら西方ヶ岳まで縦走を楽しむ。敦賀三山の岩籠山も登りたい山ですね。 記:西村(晶)</p>								
連番	629	例会No.	一般403	内容	宝塚・大峰山	実施年月日	2015/5/17	担当者	小椋(勝)、野原
参加者	小椋勝久、野原勇、西村美幸、杉本栄子、近藤さとみ、寄川都美子、青木義雄、黒澤百合子、安本昭久、安本嘉代、岸田暎子、翁長和幸、秋田文雄、三原秀元							参加者数	14
担当者コメント	<p>何気なく例会の予定を考えているとき、インターネットでふと目に着いたのが宝塚大峰山。一体どんな山なのかと調べるうちに行ってみようと思ひだし5月の例会に上げさせてもらいました。最近、私の担当は雨続きで雨男などと言われるようになっていましたので、2~3日前まで不安になっていましたが、当日の天気予報では晴れ、それも汗ばむ陽気との事。やっとこれで例会を実行することができると喜び集合場所へ。武田尾駅から旧宝塚線の廃線跡のハイキングコースを歩き桜の園の登山口へ、階段を上がり桜の園へ向かう予定でしたがいきなり道を間違えて周回コースへ、皆気が付くかなと考えながら歩いていっているうちに大峰山への分岐へ到着。そこから新緑の中、春ゼミの鳴き声を聞きながら大峰山へ。山頂で早めの昼食を取り次の目的地中山へ向かう。地形図を見ながら自分の位置を確かめ歩く、しかし単調な上に森の中では目印となるものが見つけない。登山道は位置の確認は中々できない。そうこうするうちに県道に出て県道を横切る。ダムの横を通り、ゴルフ場沿いを歩くしばらく快適な尾根道を歩くと中山につく。中山で休憩をして歩き出すがSLが足を捻挫したためOB2人についてもらい途中で下山することにする。OBの助言もあり、残ったOBにSLになってもらい中山寺に向かう。今回近郊の山で良かったが実際、女性が多いEPEでは事故に遭遇した時のことを考えると、まだまだ反省しなければいけない事が多いと思ひながら下山した。 記:小椋(勝)</p>								
連番	630	例会No.	一般404	内容	高尾山~信貴山	実施年月日	2015/5/24	担当者	板谷、大石
参加者	板谷佳史、大石隆生、三原博子、和田敬子、喜多田恵美子、藤田喜久江、和田都子、寄川都美子、佐藤敏子、小川眞裕美、駒井万生子、青木義雄、西村晶、保木道代、小杉美代子、笠松マサエ							参加者数	16
担当者コメント	<p>担当者二名とも交代しての未知のコースからの例会となりました。信貴山周辺は無数のハイキングコースと車道が入り乱れており、にわか仕込みの情報を持ち寄っての実施となった。幸い柏原駅から徒歩5分に在住の笠松さんが参加してくださり、高尾山まで迷うこともなくスムーズに進行しました。そこからしばらくは山道があったが、やがて車道に出て巨大な信貴変電所に出会う。車道だけ使うのなら簡単だが、できるだけ山道を・・・ということで変電所を迂回するため再び山道に入って蜘蛛の巣をばらひながら草むらを行く。柏原市の斎場前に出て再び車道を歩き山道が見つからないまま日照りの車道を行くと、「農業公園信貴山のどか村」へ。しばらくよく歩かれた府県境ぞいの明瞭な山道を行くと、例会でも何度か来ている信貴山・朝護孫子寺の境内へと導かれた。天気予報では朝のうち雨を覚悟でしたが、全く降ることが無く強い日差しの晴れの天気となりこの点も幸いでした。 記:板谷</p>								
連番	631	例会No.	一般405	内容	岩湧山	実施年月日	2015/5/31	担当者	西村(晶)、杉本(康)
参加者	西村晶、杉本康夫、安岡和子、保木道代、寺島直子、西村美幸、寄川都美子、青木義雄、黒澤百合子、安本昭久、安本嘉代、山下登志子、三原博子、和田敬子、藤田喜久江、和田都子、佐藤敏子、村木正人、村木とも子、池田るい子、磯辺秀雄、谷村洋子							参加者数	22
担当者コメント	<p>岩湧山は見晴らしの良い頂上です、大阪湾沿いに広大な平野が広がっており、遠くを望めば六甲の山々を見渡す事が出来ます。昨年の夏には頂上よりPLの花火を見ようと訪れたのですが、期待に反して花火会場との距離が思っていたより遠くて残念な思いをしました。辺りを見渡すと木々の緑があざやかで、おおきな山々が広がっており、3月に登った一徳防山が眼下に見えました、地図を広げて見ると一徳防山から編笠山に登り岩湧山のコースも楽しそうな登山ルートではないかと思ひ描きました、次回は登りたいルートですね。週初めの天気予報は雨の予報でしたが、当日は曇り後晴れとなり、涼しい風が身体をとおりすぎる登山日和で、新緑の木々も少し色が濃くなったと感じた山道でした。 記:西村(晶)</p>								

2015年度('14/11~'15/10)EPEクラブ活動報告

2015/10/E現在 板谷

連番	632	例会No.	一般406	内容	ベーシック登山No.31 金剛・旗尾岳～タンボ山 テーマ:歩行術-2	実施年月日	2015/6/7	担当者	紀伊莚本(節)、秋田	
参加者	紀伊莚本節雄、秋田文雄、翁長和幸、西村晶、小杉美代子、岡本佳久、山本洋、青木義雄、喜多田恵美子、安本嘉代、杉本栄子、寺島直子、谷村洋子、保木道代、安岡和子、池田える子、和田敬子、和田都子、寄川都美子、三原博子、實操綾子、村木正人、村木とも子、安本昭久									
参加者数	24									
担当者コメント	今年度からベーシック登山にテーマがつくようになりました。今回は「歩行術-2」です。難しい話は別として、実際に歩行時間5時間、所要時間7時間の1日行程をリーダーのリードでクリアしてもらえればそれはそれで充分課題を果たしたことになると思います。休憩の合間に「一定の歩行速度とは、」に付いて解説しました。簡略すれば、一定の心拍数を保つこと、歩行速度は状況(登り下り)次第で自在に変換すること、です。決して同じ速度で歩くことではありません。これはもちろんワンポイントアドバイスです。登山の歩行術はまだまだ多岐多様の解説が必要です。しかし大方の皆さんは既に多岐に亘る実践でレベルに応じた技術は身に付いていると思います。大事なことは、現状に甘んじることなく常に前進進歩しようとする心得です。高齢者なればなおさらその心得が必要と私は思います。今日も快晴に恵まれ1日存分にハイキングを楽しみました。楽しむことの出来る喜びを皆さんと共有できる幸せは最高です。 記:紀伊莚本(節)									
連番	633	例会No.	一般407	内容	比良・権現山～小女郎池	実施年月日	2015/6/14	担当者	翁長、小椋(勝)	
参加者	翁長和幸、小椋勝久、佐藤敏子、笠松マサエ、寄川都美子、青木義雄、寺島直子、山倉康次、黒澤百合子、小川眞裕美、保木道代									
参加者数	11									
担当者コメント	権現山登山口から左の舗装道路を歩き、電波塔手前から山道に入る。かなり厳しい登りである。ひと汗、ふた汗かいた頃、何かしらさびしい霊仙山頂についた。展望はあまりない。小椋さんの説明では「ここから権現山の間には山ぼうしが点在していて今が花の盛りだ」との事。山ぼうしの花は中心の緑の小さい丸い所だそうで、白い花びらのようなものは花ではないらしい。広いなだらかな尾根には山ぼうしの白い花(?)が所どころで見受けられる。権現山登山口からの林道工事が、ズコパンを過ぎて権現山手前20分ぐらいまで出来ている。山頂は我々と他パーティの4人だけであった。少し霞んではいるが、カーブした琵琶湖湖岸や琵琶湖大橋、沖島が見受けられる。ここでランチタイムとする。権現山からは、おおむね低い雑木と草原状の幅広い尾根となり小女郎峠へと続く。気分の良い尾根歩きとなる。1000m前後まで登ると風が冷たく更に心地よい。意外と大きな小女郎池には、10人程の先客がいて賑やかなことだ。山上の湖には夜叉ヶ池をはじめとした色々な伝説が多い。ここ小女郎池も同じように「大蛇とお孝という人妻の言い伝えがある」と、池のほとりの案内板に書かれていた。もしここに誰もいなくて1人でいたとすれば、小泉八雲の世界に引きずりこまれそうな感じがする。今日はひよつとすると雨になるかなとも思ったが、影がうつすらと見えるぐらいの高曇りで涼しくてちょうど良い天候でした。 記:翁長									
連番	634	例会No.	一般408	内容	京都西山・保津峡～松尾山と ビール工場見学	実施年月日	2015/6/21	担当者	野原、小椋(勝)	
参加者	野原勇、小椋勝久、翁長和幸、神阪洋子、小椋美佐、三原博子、池田える子、安岡和子、寄川都美子、和田都子、片山純江、藤田喜久江、小川眞裕美、佐藤敏子、青木義雄、笠松マサエ、保木道代、小原武尚、飯尾廣子、岡本佳久、磯辺秀雄									
参加者数	21									
担当者コメント	普通「嵐山」と聞いた時、イメージするのは渡月橋及びその周辺景勝地といったところだろう。私自身も嵐山という山の存在を今回計画するまで知らなかった。目標は嵐山、工場見学に間に合うため午後2時頃までに下山可能、静かな山歩きができるコースを考えて今回の計画が出来ました。問題は天気。前日の天気予報では、近畿地方は大荒れが予想されるという最悪の状況。普段であれば例会中止間違いなし。しかし今回は年1度のビール工場見学がセットになっており、楽しみにしている会員も多く雨天決行とした。JR保津峡駅で雨具を各自着込み出発、保津川左岸道路を進み、吊り橋を渡ってトロッコ保津峡駅へ。駅からは右岸沿いに護岸の上を歩くとトロッコ電車の線路をくぐって登山開始。最初の1時間がこの例会の成否を決める急登で、所々ロープが架かっていました。急登が終わった松尾谷林道の終点ロータリー広場からは傾斜も緩みペースが上がる。山上ヶ峰頂上はパス。烏ヶ岳で昼食。嵐山頂上は樹林で見晴らしは良くないが、少し東寄りの嵐山城址からは眼下に桂川、嵯峨嵐山から比叡山まで展望も開ける。松尾山からは予定変更し、嵐山駅へ向け下山とした。最後にサントリー京都ビール工場の見学。施設案内等の後、お待ちかねの試飲タイム。試飲ビールは1杯目がザ・プレミアムモルツで2杯目が新製品のマスターズドリーム、泡のきめ細かさに感心する。まるでミルクのような泡だ。3杯目が再度ザ・プレミアムモルツという次第。皆さんビールを十分に堪能した後、工場内で解散としました。 記:野原									
連番	635	例会No.	一般409	内容	六甲・逢山峡(沢登り入門編)	実施年月日	2015/6/28	担当者	板谷、大石	
参加者	板谷佳史、大石隆生、小川眞裕美、駒井万生子、小杉美代子、小椋美佐									
参加者数	6									
担当者コメント	からとだいで駅から住宅街を抜ける。準備運動にちょうど良い距離を歩いて、有野川・東山橋に着く。時々小雨が降る不安定な曇り空だが、すぐ上を林道が通る谷なので気にせず逢山峡の流れに降り立つ。お世辞にも綺麗とは言い難い水の色だが、その点は我慢。入門ルートにふさわしい静かな流れが続く途中で二つほど堰堤が有って巻くのが煩わしいが、めいめい自由に辿ってもらい初心者には沢靴の歩き心地を確かめてもらう。実質的な遡行終了点である猪ノ鼻滝の落ち口で「懸垂下降とフィックスロープの通過」について練習の機会を設けた。両テーマとも沢登りには必須の技術なので、経験者にも再確認の意味で同様に練習して頂く。これにかなりな時間を費やしてしまい、終了後昼食休憩するとすでに13時を過ぎてしまったが、仙人窟尾根から山上に向かう。遡行終了後の登りや下山を想定すれば当然のアルバイトなのでこれも練習のつもりで山越えをして神戸側まで下山して頂きました。沢登り4時間、登山4.5時間と所要時間としても本番の沢登り並みを経験して頂きました。 記:板谷									
連番	636	例会No.	OP216	内容	近江佐生城～観音寺城跡～琵琶湖沖島 歴史探訪シリーズN o. 28+アルファNo. 15	実施年月日	2015/7/5	担当者	紀伊莚本(節)、小椋(勝)	
参加者	紀伊莚本節雄、小椋勝久、青木義雄、藤田喜久江、和田都子、池田える子、牛山恵美子、片山純江、櫻井宏子、小杉美代子、樺田克彦、寄川都美子、村木とも子、村木正人、高木恵美子、紀伊莚本博美、大石隆生									
参加者数	17									

2015年度('14/11~'15/10)EPEクラブ活動報告

2015/10/E現在 板谷

<p>担当者 コメント</p>	<p>天気予報では日曜日は雨の予想 雨の中の山登りの時間と移動を考えると厳しいところが有り急遽予定を変更し 琵琶湖沖島の三角点がある尾山(220m)に登ることにしました。(結局雨は降らず) 大阪駅から怪しい空模様の下、1時間以上電車に揺られて近江八幡駅につく。近江八幡駅からバスに乗り継ぎ長命寺港へ、長命寺港に着くとチャーター船を探す。目の前には滋賀県の琵琶湖学習船『うみのこ』があり皆 ロ々にこの船かと冗談交りに言ってくる、かなわんなど思いながらチャーター船が来るまで少し待つ。長命寺の方を見ると西国33か所31番札所の文字が 景行天皇の時代が起源とか、時間が有ればEPEで訪ねたい寺だ、なんといっても名前が良い。チャーター船に乗り込み15分程度で沖島へ 沖島に着くと漁協の直販所があり皆の目を山の方に向け今日の行程を話す。未来に残したい港町の風景に選ばれた街中を通り抜け登山口へ、整備された登山道をケンケン山へ、休憩のあいだ沖島の歴史について語る。ケンケン山から尾山へ。尾山では2等三角点があるはずだが見当たらない時間が有るのでゆっくり休み下山する。予約していた民宿へ早めに入り食事をすることに、食卓には琵琶湖の幸華やかに並んでいる。川魚の概念がどこかへ行ってしまふ。臭みもなく美味しい、おいしいと笑顔になり話も盛り上がる。あっという間に時間が過ぎ、おひらきに、店を出て港へ行きチャーター船へ乗り込み帰途へつく。今回は沖島の歴史、沖島の文化、食の文化にふれることができうれしく思っています。日本には私たちが知らないことが沢山有るのだなと痛感し、こういう機会をもうけて歴史や文化にふれることもEPEの山行きの楽しみ方だと思いました。 記:小椋(勝)</p>								
<p>連番</p>	637	例会No.	一般410	内容 住吉川より六甲最高点へ	実施年月日 2015/7/12	担当者	翁長、小椋(勝)		
<p>参加者</p>	<p>翁長和幸、小椋勝久、青木義雄、牛山友幸、牛山恵美子、池田える子、飯尾廣子、岡本佳久、磯辺秀雄、和田都子、藤田喜久江、野原勇、寺島直子、笠松マサエ、寄川都美子、小川眞裕美、保木道代、安</p>						参加者数	18	
<p>担当者 コメント</p>	<p>梅雨の晴れ間の例会となりました。まだ9時前というのに改札を出ると、もう既に暑い。炎天下での出発となった。街なかの途中で水災記念碑というのが目についた。昭和13年7月阪神大水害が起こり、この記念碑の台座まで水がきたと記されている。住吉川の川底はこの碑より20m位下にあり、川幅は30から40m位はあると思われる。ここがすべて水であふれ、更に道路まで冠水したというのだから、大変な水害であったろうと思われる。街なかを離れ少し行くと五助ダムに出る。春先であれば水面に水草が少し出て五助谷出合いの全体が見渡せる。小さな水郷のような雰囲気が味わえるのだが、今の時期では水草が大きく成長し、水の流れが見えない。水郷のようなムードはなかった。五助谷出合いの少し上で驚くものを発見した。幅、奥行きとも7~8mの流れがよどんだ所に40~50cm位の魚を見つけた。水中なので少し大きく見えたのかもしれないが、六甲山でこんな大きな魚がいるとは驚きだ。雨ヶ峠コースと合流したあたりからハイカーが急増してきた。15~20人パーティが連なっている。我々の各駅停車パーティは急行パーティに何度か道をゆずり一軒茶屋へ。六甲最高点について頃は、太陽は雲にかくれていたため、少し暑さはしのげるがムシムシする。ズボンには腰から、もも辺りまで汗に濡れて色が変わっている。ここでランチタイムとする。観音様の石仏がある石の宝殿から土樋割(どびわり)へ。土樋割とは変わった地名だとは思っていたが、参加者の磯辺さんに、そのいわれを教えてもらった。「その昔、芦屋川流域の住民が水に困り、この峠を越えて住吉川から水を引くため土樋(土のとゆ)を通した。この事が住吉川流域住民の知る所となり、住吉川住民が土樋を割って壊した事から水争いになった。大坂町奉行まで巻き込んで大騒動になったらしい」と。土樋割から林道を東お多福山登山口バス停へ。普段はバス待ちの人はあまりいないのだが、今日はたくさんの方が待っている。今日の六甲山は大勢のハイカーで賑わっていた。何かイベントがあったのかも。バスの運転手は満員の為、次のバスに乗れと言いが、むりやり押し乗った。超満員でもバスの中は涼しかった。 記:翁長</p>								
<p>連番</p>	638	例会No.	OP217	内容 北ア・剣岳	実施年月日 2015/7/17~21	担当者	野原、板谷		
<p>参加者</p>	<p>野原勇、板谷佳史、寺島直子、安岡和子、小杉美代子、小椋美佐</p>						参加者数	6	
<p>担当者 コメント</p>	<p>7/19 午前4時半御前小舎出発、通常ルートで剣沢へ下り剣山荘へ。風雨が強く今日の登頂は断念。一時は頂上を諦め予定通り明日の下山も考えたが、明日の天候回復が見込まれるうに、メンバーの登頂意欲も強く緊急連絡先と各メンバーの留守宅に了解を取ったうえで、日程を延長し頂上を目指すことに決める。昼食後宿泊室にロープを張り、ハーネスを着けクサリ場の通過方法やカラビナ、シュリングの使い方等の講習を1時間半程行った。7/20 早朝4時、ハーネス、ヘルメットを着用、ヘッドランプを点灯し小屋出発。一服剣を越え前剣へ。前剣からが本番、前剣を越え鞍部にかかる両側が切れ落ちた4m程度の細長い鉄のブリッジ通過にメンバーが躊躇していると板谷さんの一喝。平蔵ノ頭の下降ではクサリにカラビナを通し安全を確保しながら進む。カニのタテバイでは先行者が繋がっており時間待ち。時間待ち中にヨコバイから落石があり安岡さんの靴に当たる。タテバイでもたもたしているメンバーに再度板谷さんの一喝、剣岳頂上9:25到着、メンバーひとり一人とがっちり握手。雲が多く期待した展望はなかったが、メンバーは満面の笑顔に包まれる。帰路下降専用のカニのヨコバイを逆行して登ってくる外国人と遭遇。その時点で私の後ろには我がメンバーを含め10名ほどがヨコバイに連なっており、また次々と増えてくる状況でこの難所をとて逆方向から登れる状況でない。ジェスチャーをまじえバックするように伝えるが、ヨコバイの上の壁を登ってしまった。岩の登り方を見ていると上手いと思ったが、万が一の場合には他人を巻き添えにしかねない危険な行為だ。その後も気の抜けない状況が武蔵のコルまで続く。午後3時45分剣沢小屋到着。この日の所要時間は体調不良者がおられたこともあり、休憩を含め11時間45分。平均タイムの倍近くかかっており剣岳に登りましたと胸を張れるような登頂ではなかったが、参加メンバーにとっては気を張り続けた時間であったと思う。7/21 雲ひとつない快晴の朝を迎え、小屋での朝食後下山開始。青空をバックに剣岳が朝日に輝いている。みくりが池温泉で入浴と昼食。室堂で本例会を解散とした。楽しかっただけでなく、辛いことも、怖かったことも多々あったと思いますがメンバーの満足感、笑顔にこの計画を担当した者として癒されました。昨日の剣岳頂上から室堂到着まで何度も何度も「ありがとうございました」と言われ続けましたが、担当者としては「無事に下りてくれてありがとう。お疲れ様でした。」とお返しします。また面白い山、心に響く山に登りましょう。 記:野原</p>								
<p>連番</p>	639	例会No.	一般411	内容 大峰・白倉山	実施年月日 2015/7/18	担当者	杉本(康)、翁長		
<p>参加者 担当者 コメント</p>	<p>雨天中止</p>						参加者数		
<p>連番</p>	640	例会No.	OP218	内容 比良・白滝谷廻行	実施年月日 2015/7/25	担当者	板谷、大石		
<p>参加者</p>	<p>板谷佳史、大石隆生、古松育代、駒井万生子、保木道代、前田守、黒澤百合子</p>						参加者数	7	

2015年度('14/11~'15/10)EPEクラブ活動報告

2015/10/E現在 板谷

担当者コメント	<p>明王谷本流と、その支流である口ノ深谷、奥ノ深谷はすでにEPE例会で取り上げられています。残った支流、白滝谷を今回辿りました。初心者向けと言うとおり困難な滝は無くすぐそばを登山道が通る安心感もあり人気があるようです。今回も2、3パーティが前後しており、思ったコースを辿れず、止む無く巻き道を使った時もありましたが、その分早く終了できました。恐れていたヒルも案外ほとんど見かけることがなく、お一人のクツに潜んでいただけで被害ゼロでした。酷暑の下界を忘れて冷ややかなひと時を味わっていただけたのではないのでしょうか。 記:板谷</p>									
連番	641	例会No.	一般412	内容	鈴鹿・高畑山	実施年月日	2015/7/26	担当者	大西(恒)、杉本(康)	
参加者	大西恒雄、杉本康夫、板谷佳史、青木義雄、小原武尚、和田敬子、和田都子							参加者数	7	
担当者コメント	<p>JR亀山駅前からはタクシー利用で、簡単に旧鈴鹿峠まで入れると考えていたが甘かった。タクシーの運転手は亀山駅周辺の近場の地理には詳しいかもしれないが、旧鈴鹿峠に行く人を想定していないのか結局坂下公民館までしか利用できなかった。おかげでというべきか案内板に導かれて昔の人も往来した峠道を辿れた。(峠道を登らずに国道沿いに歩くことができたようであるが)峠を越えると片山神社の大きな石柱が立つ道に降り立つ。道沿いに進むといつの間にか笹の道になっていた、左に鏡岩(天然記念物)へのふみ跡がある(寄り道をしたがどうということのない3mほどの岩塊があるだけであった。昔、山賊がこの岩に写る旅人を見て危害を加えたという伝説あり)。登山道に戻りジグザグの急坂、短いナイフリッジ、風化の進んだ岩道(トラロープあり)、ササの尾根道、鞍部、小ピークを越え一登りで展望のよい高畑山のピークに着く(私は途中からバテてしまつてしんどいばかりで、余り覚えていないが)。頂上は展望がよい。昼食の後、溝干山に向う。溝干山は笹道の中にあり、ピークの表示がなければ見落とすほどであった。ここから坂下峠までは急坂で立ち木につかまっただけの下りであった。峠は林道工事で削りつたままの荒れた状態であった。荒れた林道を進むと舗装道になりそのまま進み国道1号線と合流する。タクシーを呼んで関宿の駅に出てこの山行きを終わる。 記:大西(恒)</p>									
連番	642	例会No.	一般413	内容	生石ヶ峰	実施年月日	2015/8/2	担当者	翁長、大石	
参加者	翁長和幸、大石隆生、安本昭久、安本嘉代、青木義雄、小川眞裕美、寄川都美子、佐藤敏子、櫻井宏子、小杉美代子							参加者数	10	
担当者コメント	<p>朝9時というのに既に暑い。タクシー3台で小川の宮へ。「体調がおかしくなったら、すぐに申し出て下さい。熱中症に注意し水分を充分とって下さい。」とあいさつし、何度かの車道歩きや車道の横断の後、不動の辻から山道に入った。ここには大きなカシの木があった。風のない植林まじりのうす暗い中を登る。誠に暑い。熱中症を気にしながらゆっくり・ゆっくり行く。車道を横切って龍王水にでた。冷たい水で顔や手を洗い、ほっと一息ついた。ここから1時間半ぐらいで稜線のレストハウス「山の家・おいし」についた。12時30分、向かいにある休憩所でランチタイムとする。遠くで雷の音がする。少しずつ雷鳴が近づいてくる。空にはうす暗い雲が出てきた。生石山の頂上までは草原状のコースなので雷雲が近づくと少々気味が悪い。避雷針がある「山の家・おいし」で待機し少し様子を見る。20~30分で青空がでてきたので頂上にむけて出発。残念ながら高原の涼風はなかったが、緑いっぱいの草原に出会えた。生石神社奥の直立した岩峰は50m弱あり、中々見事なものである。が、ご神体のクライミングは禁止になっている。しかしその横の岩場は少し小さいがクライミングOKとの事で若い頃登ったことがある。旧札立峠は神社から林道を行き、車道と合流した処らしい。ここより20m位右手に入ると祠があった。このあたりが昔の峠道であったのだろう。一本松コースよりサクラの小径をへて小川の宮へ下山。小川の宮でマイクロバスとタクシーを呼び海南駅へ。生石高原は車で上がれるので登山者が少なくなったのか、この日は1人の登山者にしか会わなかった。今日はとにかく暑かった。 記:翁長</p>									
連番	643	例会No.	一般414	内容	比良・岳山・鳥越峰~見張山	実施年月日	2015/8/9	担当者	板谷、西村(晶)	
参加者	板谷佳史、西村晶、谷村洋子、黒澤百合子、三原秀元、江本恭子、保木道代、寄川都美子、前田守、安本嘉代、笠松マサユ、佐藤敏子							参加者数	12	
担当者コメント	<p>登山者の姿少なく遊泳目的の乗客ばかりが目立つ湖西線を降り、覚悟を決めて車道を歩き始める。岳山への尾根は風が無く白いザレ道からの照り返しに苦しめられる。給水休憩を多めに取ながら、ようやく岳山にたどり着く。ここからは登りも緩んで稜線の風も得られるようになり、苦行からいくらか解放される。鳥越峰から分岐して見張山への尾根に入ると、後は下降のみと考えていたが意外と手ごわい。あまり使われていないルートのように時々踏み跡が薄い、案の定一ヶ所で標識を見落とし間違ったルートへ迷い込んでしまった・・。その先も蜘蛛の巣と倒木がそのままの荒れた道が続く。見張山を過ぎると、高度も下がり再び暑さの戻る道をひたすら日吉神社へと降った。 記:板谷</p>									
連番	644	例会No.	一般415	内容	ベーシック登山No.32 京都北山・朝日峰 テーマ:緊急時対策	実施年月日	2015/8/23	担当者	野原、小椋(勝)	
参加者	野原勇、小椋勝久、保木道代、三原秀元、小椋美佐、佐藤敏子、小川眞裕美、板谷佳史、上原進一、青木義雄、和田都子、寄川都美子、横山寿夫、西村晶、飯尾廣子、安本昭久、安本嘉代、谷村洋子							参加者数	18	

2015年度('14/11~'15/10)EPEクラブ活動報告

2015/10/E現在 板谷

担当者コメント	紅葉の名所として名高い高雄、紅葉狩りの時期には大変な人出であろうとモミジや北山杉を眺めながら渓谷沿いの林道を辿り登山道に取りつく。急登も部分的にはあったが総じて登山道は整備されており歩きやすい。朝日峰頂上は樹林帯の中だが、南東側は樹林が疎らで京都市街が見通せ、ゆっくり昼食とした。昼食後朝日峰から林道まで下り、再び林道を辿る。太陽に真上から熱波を浴びせられ「暑い！」の一言に尽きる。林道終点で青木さんにモデル(患者)になってもらい「熱中症対策」の実演。林道終点から高山寺までの山道は樹林帯を歩くため日射が遮られ歩きやすい。途中峰山(537.4m)に立ち寄る。特にこれといった特徴のない山頂だ。高山寺へのルートは整備がされておらず朽ち果てた倒木が多い。谷に沿った登山道(一部に険路表示あり)を下り高山寺到着、最後にヘリによる救助を依頼する際の注意点を説明し解散しました。今回はテーマの重要性から緊急時対策説明を主に、登山は従として計画しました。また口頭だけでは右の耳から入って左の耳から抜けていくことになりかねないため、実際に目で見て、触って、なぜそうしなければならないか実際に経験した話をする、実演するなど記憶に残るようにしました。予定した内容は当初10項目ありましたが、時間的制約から7項目しか紹介できませんでした。残り3項目(ビバーク、医療、危険地帯通過)はまたの機会にでも紹介したいと思います。今回紹介した話は、数限りなく失敗を繰り返してきた私の実体験から学んだことです。他のリーダーにはまた違う経験、工夫、方法があります。今後も安全な登山をするためにも他のリーダーからも積極的に学んで、自分の物として頂けたらと思います。最後に、今販売中の岳人9月号から連載が始まった「あなたの登山は安全？」には私の伝えたいことが全て入っていました。立ち読みでも結構です。是非一読してください。 記:野原									
連番	645	例会No.	OP219	内容	比良・鶴川左侯遊行	実施年月日	2015/8/30	担当者	板谷、大石	
参加者									参加者数	
担当者コメント	雨天中止									
連番	646	例会No.	一般416	内容	鬼が島～高尾山～有馬温泉	実施年月日	2015/8/30	担当者	小椋(勝)、野原	
参加者									参加者数	
担当者コメント	雨天中止									
連番	647	例会No.	OP220	内容	能郷白山と冠山	実施年月日	2015/9/5～6	担当者	西村(晶)、 紀伊莚本(節)	
参加者	西村晶、紀伊莚本節雄、小川眞裕美、保木道代、上原進一、青木義雄、寄川都美子、安本嘉代、村木正人、村木とも子、實操綾子、村浪義光、藤田喜久江、池田える子、牛山恵美子、大石隆生、和田良次、和田敬子、西村美幸								参加者数	19
担当者コメント	9/5 敦賀在住の村浪さんより連絡が入り、冠山峠に通じる林道が通行止めとの連絡が入る、3日前に池田町役場に道路状況を確認したのだが。能郷白山に変更を考えたが登山口までが遠すぎるので 登る山を変更する。このような事もあると事前に調べておいた浄法寺山(1052m)に変更の説明をして登山口の浄法寺山青少年旅行村に向かう。登山口の青少年旅行村に着くと駐車場には、10数台の車が停めてあり地元では人気の山らしい。山登りは事前の準備が必要です、登山口よりの辺りに強い傾斜があり、距離はどのくらいで頂上に着くのか、1/25000の地図を事前に見て山道をイメージしておけば、歩くのも楽しくなり、頂上も近くに感じます。ガイドブックにも目を通しておけばもっと山も楽しくなります。9/6 能郷白山は奥深い山であるが道路があるおかげで簡単に登山口の温見峠に着く。出発準備をしていると雨が降り出す、昼まで待ってくれなかった。峠より500m程登ると傾斜も緩くなるが時間的にオーバーしているし、雨も止む気配も無いが頂上に行く事にする。「がんばって頂上まで行きます」と大きな声で説明をして頂上に向かう、今回は往復に6時間も要しました。環境の厳しい山行では山に入ってる時間を短くする事により安全が確保出来ると思っております。体力、脚力を鍛えてより楽しく安全な登山を目指しましょう。 記:西村(晶)									
連番	648	例会No.	一般417	内容	葛城山系・石橋山	実施年月日	2015/9/6	担当者	翁長、野原	
参加者									参加者数	
担当者コメント	雨天中止									
連番	649	例会No.	一般418	内容	六甲・芦屋川～ごろごろ岳	実施年月日	2015/9/13	担当者	大石、西村(晶)	
参加者	大石隆生、西村晶、江本恭子、神阪洋子、小川眞裕美、青木義雄、安本昭久、岸田暎子、谷村洋子、安本嘉代								参加者数	10
担当者コメント	芦屋川を河口から最初の一滴まで遡る。しかし、四国の四万十川ではなく芦屋川なので、下流部分は川沿いに面白くない街なかを歩くこととなります。その部分をカットすることにして、アプローチが良い芦屋川駅から源流までを2回に分けて歩くことを計画しました。今回はその一回目です。芦屋川駅から地図に従って住宅地の川沿いの道に入ると、フェンスで行き止まり。参加メンバーの記憶を頼りにロックガーデンへの坂道を進み、住宅地の端から草藪と雑木の斜面を強引に登って地図に書かれた登山道に出ました。その後は大して迷うこともなく芦屋川の右岸・左岸と歩き、本流と分かれて奥池からは尾根伝いにごろごろ岳を経て柿谷を下り芦屋川駅に戻りました。遡ると言っても流れに入る訳ではなく、芦屋ゲートまでは川から数十メートル上の山腹を捲くようにつけられた登山道を、ゲートからは川沿いの登山道を奥池の住宅地まで行きました。ここから先の源流部は、次回に登ります。 記:大石									
連番	650	例会No.	一般419	内容	京都・日野岳～醍醐山	実施年月日	2015/9/19	担当者	小椋(勝)、西村(晶)	

2015年度('14/11~'15/10)EPEクラブ活動報告

2015/10/E現在 板谷

参加者	小椋勝久、西村晶、西田保、青木義雄、岩本和行、寄川都美子、岸田暎子、神阪洋子、安本嘉代、杉本栄子、小原武尚、野口秀也、横山寿夫			参加者数	13				
担当者コメント	『行く川の流れは絶えずして、しかも本の水にあらずよどみに浮かぶうたかたはかつ消え、かつ結びて久しくとどまる。』方丈記より 方丈記は鴨長明が日野岳の中腹に一丈四方の庵を結び隠遁して書いたと言われる。JR山科駅から地下鉄に乗り石田駅で下車、しばらくの間、車道を歩き長明方丈石の道標を目標に登山口へ林道終点の野外活動施設の横を通り山道に入る。しばらく歩くと方丈石の石碑が現われる。ここで休憩を取り日野岳へ向かう。あまりハイカーが入らないのか蜘蛛の巣が顔に着く、しばらく歩くと石仏群があるお堂に着く、此処の湧水は飲めるらしいが皆顔を洗うだけに。お堂から歩くこと10分程度で供水峠に着く。小さな案内板で供水峠と書いているのみでひっそりとした峠だ。峠から少し登ると日野岳に着く。見晴らしはなく平坦な山頂だ。日野岳を後にユウレイ峠へ向かう。途中 パノラマ岩から遠く阿倍野ハルカスを望むことができた。ユウレイ峠はその名の通り薄暗く何か不気味さを感じる峠だ。ユウレイ峠から東へ2つ目の谷筋から登り始める。この山城は木こり道が多く、間違っに入ってしまふ。ずいぶん古い木こり道を登り尾根筋へ出て、林道をしばらく歩くと上醍醐寺が見えてくる。頂上をめざし開山堂へ向かう。開山堂の前に醍醐山頂上450mと書いてある、醍醐山は454mなのでここは違うのではと思ひ、登山道を探す、やっとのことで登山道を見つけ登っていくが頂上らしい場所を見つけずに素通りしてしまふ。登ったことにしときましようと言ひ横嶺峠へ降り。ここから長く単調な林道を歩き下山する。 記:小椋(勝)								
連番	651	例会No.	OP221	内容	大杉谷～大台ヶ原・日出ヶ岳	実施年月日	2015/9/21～22	担当者	板谷、山倉
参加者	板谷佳史、山倉康次、小川眞裕美、黒澤百合子、安岡和子、櫻井宏子、村木正人、村木とも子、小椋美佐、江本恭子			参加者数	10				
担当者コメント	9/21 ローカル線の旅で、大台町の三瀬谷へ。更に2014年から運行開始したという登山バスに乗る。昔は宮川ダム湖を船で渡っていたものだが、様変わりだ。一日一回運行の登山バスは登山口着が12時で、日没が早くなる季節には桃ノ木山の家までの所要時間を考えると先を急ぐに越したことはない。コースは昔に比べれば格段に整備されている、それでも毎年のように事故が起きているようだ、改めてメンバーにはよそ見をしないよう注意を促して出発する。5時間弱のアップダウンの繰り返しに疲れた頃、山の家に入る。石鹸は禁止だが風呂にも入れて、快適な一夜を過ごす。ただし多聞に漏れず今や大杉谷もヒルの生息地と化しており、被害者一名発生でした。大杉谷周辺では2004年9月に堂倉谷遡行、2005年10月に西谷遡行の例会がありました。当時はすでに堂倉吊橋から下部大杉谷間の登下降は(一部迂回ルートを使う以外)閉鎖されていたのです。水害による崩壊地にルートが整備され2014年より宮川第3発電所～日出ヶ岳間が全ルート通して通行可能との報に接し、EPEの足跡を印すべく計画しました。吊橋はもちろんのこと、要所にクサリや東屋まで整備されており、誰でも行けるコースになっていました。とはいえ登るにしろ、降るにしろ途中何処かで一泊が必要なコースゆえ出会う人数は知れていました。日出ヶ岳に出てからの山上周辺の喧騒を思うと大杉谷は本当に静かな二日間でした。この大杉谷まで観光地にならないよう願うばかりです。 記:板谷								
連番	652	例会No.	一般420	内容	大峰・柏原山～青根ヶ峰～吉野山	実施年月日	2015/9/27	担当者	杉本(康)、小椋(勝)
参加者	杉本康夫、小椋勝久、岩本和行、寄川都美子、青木義雄			参加者数	5				
担当者コメント	平安時代頃に中国から仲秋の十五夜に月見の祭事が伝わり、今では自宅や各地で観月会が催されている。また、子供達が近隣の各家に供えてある月見団子などの供え物を見つからないように盗って「お月見泥棒」という風習もあった。下市口駅からのタクシーの運転手の話によると、朝7時頃まで雨が降っていたそうだ。黒滝村役場を出発しても曇り空で一時霧雨も降り出す、晴天よりは暑さもしのげ助かる。上中戸から柏原山までは新しく林道が開かれているが、舗装されていないので歩くのは楽である。柏原山には林道から登山道を15分ほど歩くと到着する。山頂は展望が効かず、おまけに目の前まで林道が通っていて興ざめする。馬の背展望台まで来ると、吉野からの舗装された林道に出会い、あとは林道沿いに吉野へ向かう。青根ヶ峰も林道から5分で頂上に着く。義経隠れ塔のある金峰神社を過ぎると、奥千本口バス停まですぐに到着する。歴史ある吉野で中秋の名月の日に例会が持て、また山中ではススキや萩の花も見られ、私たちは電車の中からの観月会となった。 記:杉本(康)								
連番	653	例会No.	一般421	内容	鎌倉峽～百丈岩	実施年月日	2015/10/4	担当者	野原、翁長
参加者	野原勇、翁長和幸、横山寿夫、青木義雄、板谷佳史、神阪洋子、保木道代、小川眞裕美、安岡和子、安			参加者数	10				
担当者コメント	「百丈岩」この名を聞くと、クライミングに挑んだ青春の1ページがふつふつと沸き上がる方も多いのでは？。他に不動岩、堡壘岩、藤内壁など上手は上手なりに、下手は下手なりに墜落の恐怖に怯え、手足を傷だらけにして挑んだ思い出多き岩場です。この百丈岩をメインに考え、それとセットに考えたのが鎌倉峽でした。鎌倉峽はEPEでも創立間もない頃に一度実施されていますが、ネットで調べると本格的な沢登りではなく普通のシューズで充分に楽しめるかと判断、再度計画しました。道場駅に降り立つのは30数年ぶり。駅舎も立派になり、また電車の本数も昔は1時間に1～2本、昼間は2時間に1本しかなかった頃と比べてなんと便利になったことか。先ずは今日の予定コースの平田配水所を目指す。途中新名神高速道路の工事現場を通過する。山が削られ自然が破壊されていく。時代の要請もあり仕方のないことかも知れないが、実際に巨大な工事現場を目の前にすると少々寂しくなる。途中の分岐標識に「鎌倉峽 上級者コース」と掲示されているのは想定外。「えっ、そんなに難しいの？」とメンバーの顔触れを見てやや不安になるが、ここまで来たからには行くしかない。水量が少なかつたこともあるが、実際に遡行してみると想定内のレベル。念のためにロープ、シュリング5本、カラビナ5個を用意してきたが、シュリングを1本使っただけ。沢登りの真実事的な遡行だったが十分に楽しめたのではないかな。百丈河原も昔とは様変わり。昔は広場だった所に売店が出来ており、また「百丈やぐら」という墜落体験施設もありびっくりする。この施設は墜落の衝撃や荷重からの脱出方法等体得するには格好の施設と一目で分かった。百丈岩に来たからには、百丈岩に登らなければ意味がない。一般ルートを百丈岩のてっぺんまで登り、横山さんや神阪さんらと昔話に花を咲かせながら昼食とした。時にはこのような思い出山行もいいなと思ひながら道場駅に戻った次第です。 記:野原								
連番	654	例会No.	一般422	内容	湖北・行市山	実施年月日	2015/10/11	担当者	板谷、杉本(康)

2015年度('14/11~'15/10)EPEクラブ活動報告

2015/10/E現在 板谷

参加者	板谷佳史、杉本康夫、梅田寛子、和田都子、神阪洋子、岩本和行、小川眞裕美、青木義雄						参加者数	8	
担当者コメント	<p>行市山は野坂山地の東端として位置付けられる山で、戦国期柴田勝家の砦となって各配下の陣地が築かれ、全山要塞化していたという。しかし賤ヶ岳の合戦の折り、幾万ともいう柴田方軍勢は一度もここ行市山の陣に依ることもなく余呉湖畔で秀吉方に敗北することになったという、歴史の山である。バスは木ノ本駅から北国街道(R365)を走り、余呉町今市で降りる。身支度を整え、歩き出すとすぐ集落のはずれに柴田勝家の身代わりに討ち死にしたという「毛受(めんじゅ)兄弟の墓」がある。登山道はそこから始まる。尾根上には次々と各武将の砦跡が現れ、説明板を見ながらの登高となる。各砦間を人馬が行き来したというだけあって、山頂直下のわずかな急登を除きなだらかな山容が続き、歩き易い。やがて勝家の甥佐久間盛政の陣地跡という行市山山頂に着く。東に七々頭ヶ岳や呉枯ノ峰がうっすらと望まれる以外は低い雲に覆われて展望はほとんど閉ざされているのが残念。昼食休憩の後、山頂から直接東に延びる尾根を下降するが、しばらくは背丈以上の笹が茂った急斜面に苦勞する。やがて中腹を横切る林道に降り立ち再び元の登路と合流して今市バス停に戻った。記:板谷</p>								
連番	655	例会No.	OP222	内容	奥美濃・蠅帽子峠と蠅帽子嶺 歴史探訪シリーズNo. 29 水戸天狗党Ⅱ	実施年月日	2015/10/17~18	担当者	紀伊埜本(節)、 小椋(勝)
参加者	紀伊埜本節雄、小椋勝久、板谷佳史、大石隆生、安本昭久、黒澤百合子、小川眞裕美						参加者数	7	
担当者コメント	<p>3月の木の芽峠越え歴探に続いて、水戸天狗党Ⅱ 蠅帽子峠の歴探を実施しました。あまり快適な登山になるとは思えぬ企画でしたが、能郷山脈の一角を美濃から越前に抜ける間道は元々歴探に関わらず山ヤのロマンをかきたてるに十分なものはあるはず。山と歴史を巡る楽しさは、実際に歴史の場を我身で体感すること、観るだけではなく往時の人の息遣いも、何を視たのか、何を思うたのかを共有できること、奥深き山であればこそ残る臨場感、そんな味合いを求めてこれからも愉しみ多い歴探を続けたいと思います。記:紀伊埜本(節)</p>								
連番	656	例会No.	一般423	内容	札立山~大福山~雲山峰	実施年月日	2015/10/18	担当者	西村(晶)、翁長
参加者	西村晶、翁長和幸、小椋美佐、小原武尚、寄川都美子、安本嘉代						参加者数	6	
担当者コメント	<p>国土地理院の地図を広げて見ると、孝子駅より東に向かって延びる尾根は山中溪駅まで続いている、高野山、札立山、大福山、雲山峰など起伏の少ない緩やかな山々が連なっている山域である。コピーした地図に登山コースを赤鉛筆でなぞり、ポイント事に歩行時間を記入して行くと8時間30分になった。大福山が中間地点なので13時頃に着けば、山中溪駅には17時に到着予定で計画を進めた。高仙寺よりいきなりきつい登りであるが尾根上に出れば緩やかになり歩きやすくなる。高野山より登る人が少ないのか蜘蛛の巣が道に張り出しており、木の枝で払いのけての歩行となる、奥辺峠に出ると登山道も広くなりピッチを早める、中間地点の大福山には13時に着く、孝子駅より4時間少してたどり着く事が出来ました。後半は井関峠より雲山峰に登り、第一パノラマ台で大阪湾の展望を楽しみ 30分程でゴールの山中溪駅に予定時刻に到着しました。木々の生い茂る緑の多い稜線より紀ノ川の流域、関空、大阪湾の展望も良くて眺めの良い山々であった。記:西村(晶)</p>								
連番	657	例会No.	一般424	内容	京都・鷲峰山	実施年月日	2015/10/25	担当者	杉本(康)、野原
参加者	杉本康夫、野原勇、板谷佳史、安本昭久、安本嘉代、飯尾廣子、青木義雄、寄川都美子、小川眞裕美、江本恭子						参加者数	10	
担当者コメント	<p>鷲峰山金胎寺は「役の小角」によって開かれ、平城京の鬼門封じの寺として、聖武天皇によって堂が建立され勅願寺とされたそうです。また奈良県の大峰山に対して「北の山上」とも知られ、山頂付近には有料ながら行場巡りができてたくさんの方が訪れているようです。維中前でバスを降り澄み切った青空の中、茶畑やたわわに実った柿の木を眺めながらのんびりと車道に行く。途中には信西入道塚や大道神社、秋の紅葉などがあり町の名所になっているそうです。金胎寺の門前を過ぎ本堂弥勒堂や多宝塔のある広場からさらに登ると鷲峰山に到着。ここは越智泰澄法師が、麓まで托鉢を飛ばして食料を得たと言伝説から「空鉢の峰」とも呼ばれているそうです。山頂からは京都市街や琵琶湖、比叡山などの山々が望まれるが、風が吹いているので日陰に入ると結構寒い(一人半袖で元気な人がいたが)。鷲峰山は金胎寺の山号としての山(国土地理院の地図ではここが鷲峰山となっている)とここより北東約700mの位置に「釈迦岳」と呼ばれている一等三角点の鷲峰山が存在する。一等三角点を踏んだあとは湯槽谷を下り茶宗明神社(ちゃそうみょうじんじや)に降り立つ。この神社は、日本緑茶の祖 永谷宗円の功績を讃える神社だそう。神社横には宗円の生家があり地元の人たちにより改修され、私たちも家中を見学させてもらう。翌日、新聞を開くと「木枯らし1号」が吹いたと報じられていた。記:杉本(康)</p>								
連番	658	例会No.	OP223	内容	高島トレイルー4・二の谷山~ 駒ヶ岳~百里ヶ岳	実施年月日	2015/10/31~11/1	担当者	板谷、村浪
参加者	板谷佳史、村浪義光、小川眞裕美、安岡和子、安本嘉代、小椋美佐、江本恭子						参加者数	7	
担当者コメント	<p>10/31 前回の終了点であった水坂峠に再び立つ。すぐ二の谷山への急登から始まる。予報通りの冬型気圧配置となっており、ルートが日本海側を辿ると西風が寒くふるえるほどだ。それでも午後になると日が射し始め紅葉を愛でながらの尾根歩きとなる。初日の重荷のせいもあり行程がはかどらない。水坂峠から12Kmほど進んだが、計画していたより1時間程手前だが日没を嫌って見つけたテント適地にて泊とした。夜の冷え込みを覚悟したが、風も無く意外と暖かな夜だった。今回は5ツの峠、6ツのピークを踏破して約26Kmを縦走しました。途中一泊のテント地が計画より1時間ほど手前になってしまったことが最後までつきまとい、終着点である小入谷からのバス時刻に間に合わない結果となってしまいました。1日目の時間の読みが甘かったおかげで余計なタクシー代を出費させてしまいました。天候に恵まれ、紅葉も十分楽しめたことで穴埋めとさせて頂きます。この続きは来年4月末頃を予定しています。残るは約18Kmとなります。ぜひ全トレイルを完歩したいと思います。記:板谷</p>								

2015年度('14/11～'15/10)EPEクラブ活動報告

2015/10/E現在 板谷

一般例会(新年会含む) : 49回 / 640名	オプション例会 : 18回 / 187名	例会合計 : 67回	参加者総数 : 827名
--------------------------	----------------------	------------	--------------